

授業科目名：オーケストラ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：	担当教員名：山本訓久			
		1 単位	担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
管弦打楽器による合奏技術の習得をねらいとする。履修を通じて受講生がスコアを読んで個々の楽器の役割について理解し、合奏の喜びを感じられるようになることを到達目標とする。取り上げるレパートリーについても、作品の背景などを説明できるよう心がける。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要						
管弦打楽器の基礎的な合奏技術を習得する。授業の形式は、パート練習及び合奏を基本とする。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション、取り上げる教材についての説明、楽器の経験年数、配分等の希望調査						
第2回：古典派のオーケストラ作品による演習1、パート練習1 譜読み						
第3回：古典派のオーケストラ作品による演習2、分奏（セクション練習）1 譜読み						
第4回：古典派のオーケストラ作品による演習3、合奏1 譜読み						
第5回：古典派のオーケストラ作品による演習4、合奏2 音楽表現を深める						
第6回：ロマン派のオーケストラ作品による演習1、パート練習1 譜読み						
第7回：ロマン派のオーケストラ作品による演習2、分奏（セクション練習）1 譜読み						
第8回：ロマン派のオーケストラ作品による演習3、合奏1 譜読み						
第9回：ロマン派のオーケストラ作品による演習4、合奏2 音楽表現を深める						
第10回：さまざまな時代のオーケストラ作品による演習1、パート練習1 譜読み						
第11回：さまざまな時代のオーケストラ作品による演習2、分奏（セクション練習）1 譜読み						
第12回：さまざまな時代のオーケストラ作品による演習3、合奏1 譜読み						
第13回：さまざまな時代のオーケストラ作品による演習4、合奏2 音楽表現を深める						
第14回：授業の総括と定期試験（公開演奏会形式による）						
テキスト パート譜及びオーケストラスコア（各進度に合わせて指示する）						
参考書・参考資料						
山本訓久：『ブルクミュラーで指揮法入門』（スコアリーディングの学習に用いる）						

学生に対する評価

授業に対する取り組み（50%）、提出課題等（50%）

授業科目名：吹奏楽	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：清水和高 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）（中学校及び高等学校） 					
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な吹奏楽による合奏を学ぶ この授業の履修を通じて、受講生が吹奏楽について理解し、吹奏楽理論、合奏指導法などを習得できることを到達目標とする。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要 吹奏楽に関する知識と実践を学ぶ。授業の形式は合奏を基本とする。						
授業計画 第1回：オリエンテーション（吹奏楽に関する概要説明） 第2回：吹奏楽の歴史に関する学習 第3回：吹奏楽器に関する理解 第4回：合奏に必要な基礎的事項の学習（姿勢、呼吸法、フィンガリング等） 第5回：吹奏楽のトレーニングブックを使用した学習（ハーモニー、リズム、ダイナミクス） 第6回：吹奏楽のトレーニングブックを使用した学習（コラール） 第7回：簡易な作品を通じた合奏学習 第8回：高度な作品を通じた合奏学習 第9回：より高度な作品を通じた合奏学習 第10回：簡易な作品を通じた合奏指導法を学ぶ 第11回：高度な作品を通じた合奏指導法を学ぶ 第12回：楽曲分析とプログラム研究 第13回：学習した全プログラムの総括（ゲネ・プロ） 第14回：授業の総括と定期試験（公開演奏会形式による）						
テキスト 吹奏楽トレーニングブックと楽譜（楽曲は適宜指示する）						
参考書・参考資料						

授業時間中に適宜指示する

学生に対する評価

授業に対する取り組み50%、定期試験の内容50%で評価する。

授業科目名：基礎管弦打実技I	教員の免許状取得のための選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名：清水和高、山本訓久、田中正敏、山口多嘉子、西澤央子、松実健太、中村千鶴、班目加奈 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>管弦打楽器に関する基礎的な内容を理解することをねらいとする。</p> <p>この授業の履修を通じて、受講生が管弦打楽器について理解し、奏法をはじめ、楽器学、歴史などを説明できるようになることを到達目標とする。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>管弦打楽器の基礎的奏法を学ぶ。授業の形式は個人およびグループレッスンを基本とする。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（楽器、レッスン内容など基礎事項に関する説明）</p> <p>第2回：楽器、奏法に関する概要説明</p> <p>第3回：楽器、奏法に関する基礎的事項の説明</p> <p>第4回：楽器、奏法に関する基礎的事項の実践</p> <p>第5回：教則本などを使用した学習</p> <p>第6回：教則本などを使用したより進んだ学習</p> <p>第7回：教則本と簡単な楽曲を使用した学習</p> <p>第8回：教則本と簡単な楽曲を使用したより進んだ学習</p> <p>第9回：楽曲を通じ、基礎的な表現にかんする学習</p> <p>第10回：楽曲を通じ、より進んだ表現に関する学習</p> <p>第11回：簡単な楽曲の学習</p> <p>第12回：楽曲の学習（ピアノ伴奏付）</p> <p>第13回：楽曲と通じたより高度な学習（ピアノ伴奏付）</p> <p>第14回：授業の総括と定期試験</p>						
<p>テキスト</p> <p>教則本と楽譜（各進度に合わせて指示する）</p>						
<p>参考書・参考資料</p> <p>授業時間中に適宜支持する</p>						

学生に対する評価

授業に対する取り組み50%、定期試験の内容50%で評価する。

授業科目名： 和楽器A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：川村葵山（大輔） 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 尺八の講義、実習を通じ尺八音楽の構造を学ぶ。 小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要 1、尺八の歴史、楽器の構造、尺八音楽についての講義 2、尺八音楽の鑑賞 3、尺八演奏の実習、基礎の習得						
授業計画 第1回：講義のガイダンス 楽器の持ち方、取扱い 第2回：尺八の歴史 音の出し方 第3回：尺八の構造 指使い 第4回：さまざまな種類の尺八 楽譜の読み方 第5回：尺八音楽鑑賞「本曲（本曲）」 オクターブの出し方 第6回：尺八音楽鑑賞「現代曲」 連続音の指使い 第7回：尺八音楽鑑賞「三曲合奏」 メリ音の出し方 第8回：現在の尺八音楽 半音の出し方 第9回：尺八制作概要 大甲（たいかん）音の出し方 第10回：尺八曲分析「都山流本曲 木枯」 ユリ（ビブラート）の方法 第11回：尺八曲分析「都山流本曲 峰の月」 特殊奏法解説 第12回：五線譜での演奏方法 音色の変化 第13回：課題曲への取り組み 第14回：合奏曲への取り組み 課題の提出						
テキスト 「尺八を吹こう」都山流尺八楽会						
参考書・参考資料等 授業で適宜指示する。						
学生に対する評価 授業への参加状況（70%）、提出課題（30%）により総合的に判断する。						

授業科目名：和楽器B	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山口 明子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校音楽）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 音楽（小学校） • 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 細棹の三味線を実際に演奏してみることにより、日本の楽器や日本音楽、日本文化について考察し、将来の自分自身の音楽活動や教育活動の一助とすることを目標とする。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要 三味線の扱いを覚え、代表的な調弦ができるようになる。『本調子の練習曲』の練習を通して、三味線の基本的な奏法を身につけ、童謡など身近な曲や古典曲、現代曲を演奏したり、箏など別の楽器との合奏にもチャレンジする。						
授業計画 第1回：授業計画の説明と履修予定曲や関連曲の実演。 第2回：三味線の扱い方、調弦、記譜法の説明と『本調子の練習曲』の1の糸の練習。 第3回：『本調子の練習曲』の練習(1の糸、2の糸)。 第4回：『本調子の練習曲』の練習と発展(2の糸、3の糸)。 第5回：『本調子の練習曲』の練習と応用(3の糸、合わせばち、すくいばち、はじき)。 第6回：『本調子の練習曲』のまとめ。 第7回：3種類の調弦(本調子、二上り、三下り)で『さくら』にチャレンジ。 長唄『勧進帳』「寄席の合方」の説明。 第8回：長唄『勧進帳』「寄席の合方」の練習(1/2まで)。 二上りで小品を弾く。 曲目 『さくら』(唄の部分まで)、『姫松』 第9回：長唄『勧進帳』「寄席の合方」の練習と発展(2/2まで)。 二上りで小品を弾く。 曲目 『さくら』(後奏まで全部)、『花くらべ』 第10回：長唄『勧進帳』「寄席の合方」の練習と応用(後半重心に練習)。						

三下りにして長唄『越後獅子』(曲の一部分)にチャレンジ。

第1 1回：長唄『勧進帳』「寄席の合方」のまとめ(全体を通して練習)。

知っているメロディーを適切な調絃を見つけて弾いてみる。

第1 2回：発表会に向けて個人やグループで練習(演奏曲や演奏の編成は自由)。

第1 3回：発表会のプログラム決定。発表会の準備完了。

第1 4回：発表会(個人またはグループの発表)。レポート提出。

テキスト

練習曲や必要な楽譜、資料についてはプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『教材事典－教材研究の理論と実践』(東京堂出版(2013年) 出版)

『平井澄子の知恵袋』(平井澄子 著、邦楽ジャーナル(2000年) 出版)

学生に対する評価

平常点(授業への参加態度)40%、発表会30%、レポート30%

授業科目名：和楽器C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：越後真美 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校及び高等学校 音楽)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 音楽(小学校) • 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)(中学校及び高等学校)					
授業のテーマ及び到達目標 古代日本において大陸から取り入れ千年以上受け継がれてきた雅楽を、実際に演奏してみることでその特質を考察する。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要 主に雅楽で最も親しまれている「越殿楽(えてんらく)」を題材に、雅楽の構造と演奏法を学習する。						
授業計画 第1回：雅楽の概要と唐楽で使用される楽器、学習法の説明 第2回：越殿楽一行目の唱歌／上無・神仙人・盤渉の運指と音出し(龍笛・簞篥・笙) 第3回：越殿楽二行目の唱歌／黄鐘・双調・勝絶(下無)の音出し(龍笛・簞篥・笙) 第4回：越殿楽三行目の唱歌／平調・壱越の運指と音出し(龍笛・簞篥・笙) 第5回：越殿楽唱歌と運指の小テスト 第6回：越殿楽一行目の演奏法(龍笛・簞篥・笙) 第7回：越殿楽二行目の演奏法(龍笛・簞篥・笙) 第8回：越殿楽三行目の演奏法(龍笛・簞篥・笙) 第9回：越殿楽の打物(鞨鼓・太鼓・鉦鼓)の学習 第10回：越殿楽の糸物(琵琶・箏)の学習 第11回：平調音取の学習と越殿楽の合奏学習 第12回：歌物の説明と朗詠「嘉辰」の歌唱／舞楽体験 第13回：演奏時の作法、装束の着付けの学習 第14回：授業のまとめと定期試験						
テキスト 明治撰定譜「平調音取」「越殿楽」「嘉辰」						
参考書・参考資料等 別冊太陽『雅楽』(平凡社) CD「越天楽のすべて」(キングレコード) 適宜資料を配布する						
学生に対する評価 定期試験40%、授業への参加態度30%、小テスト30%						

授業科目名： 和楽器D	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山田 寛 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校及び高等学校 音楽)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽(小学校) ・器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)(中学校及び高等学校)					
授業のテーマ及び到達目標						
篠笛の実習と歌舞伎音楽(主に囃子)の学習より日本音楽固有の様式を学ぶ。 小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要						
音楽科において和楽器(篠笛)の指導を行うための基礎的な内容について理解する。						
授業計画						
第1回：篠笛の構え方と音の出し方 第2回：呂音と指打ちを使った演奏 第3回：甲音の出し方 第4回：呂音と甲音のつなぎの音 第5回：指をすらすメリの音 第6回：歌口によるカリの音と、大甲音の出し方 第7回：小曲の練習1(童歌、さくら等) 第8回：小曲の練習2(こきりこ節等) 第9回：古典曲を吹いてみる1(長唄「ことぶき」) 第10回：古典曲を吹いてみる2(長唄「長き夜」) 第11回：独奏曲を吹いてみる(山桜の歌) 第12回：三味線入りで古典曲を吹いてみる1(長唄「長き夜」) 第13回：三味線入りで古典曲を吹いてみる2(長唄「越後獅子」) 第14回：まとめ(実習の成果発表)と実演家による演奏の鑑賞						
テキスト						
教本「篠笛の本」、使用楽器 プラスチック篠笛「飛天」(七本調子)						
参考書・参考資料等						
授業内で適宜紹介する。						
学生に対する評価 篠笛を音楽科で取り扱うための基礎的な内容についての理解と達成度(40%)、授業への参加状況(60%)から総合的に評価する。						

授業科目名：指揮法	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名：山本訓久 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・指揮法（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
教育現場（特に小・中・高等学校）での音楽科授業における合唱、合奏およびアンサンブル指導に有効な指揮法の基礎的技術を系統的に習得する。						
授業の概要						
指揮法の技術習得と同時に、楽曲分析に重点を置き和声・フレーズ等の分析を行う。分析することで楽曲構成を理解し、指揮法の技術と合致させ、合唱や合奏の音楽をまとめ上げる。						
授業計画						
第1回：「平均運動1」技術の習得						
第2回：「平均運動2」3拍子と4拍子、「しゃくい」						
第3回：「叩き1」技術の習得						
第4回：「叩き2」2拍子						
第5回：「叩き3」3拍子と4拍子						
第6回：「撥ね上げ」技術の習得						
第7回：さまざまな技術の総合						
第8回：「引っ掛け」技術の習得						
第9回：アウフタクトで始まる楽曲の指揮						
第10回：フェルマータの指揮						
第11回：6/8拍子の指揮						
第12回：混合拍子						
第13回：合唱及び合奏の指揮						
第14回：授業の総括と定期試験						
テキスト						
山本訓久『学ぼう指揮法 Step by Step』（アルテスパブリッシング）						
参考書・参考資料						
授業時間内に適宜指示する						
学生に対する評価						
授業に対する取り組み（50%）、提出課題等（50%）						

授業科目名：作曲法 I	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名： 山内雅弘 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び 諸民族の音楽を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
作曲・編曲・楽曲分析のために必要となる和声理論の基礎を習得することをねらいとする 。属7の和音までの4声体和声での実施、借用和音の基本理論を理解することができる ことを目標とする。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要						
四声体和声の基礎（三和音・属七の和音）、和声の発展（借用和音・転調）、楽曲の和声 分析（様々な和音・非和声音）の実習を行う。						
授業計画						
第1回：和声の基礎知識						
第2回：基本位置3和音の連結（1）理論の概説と小問の実施						
第3回：基本位置3和音の連結（2）課題の添削						
第4回：様々な調の課題について（1）						
第5回：様々な調の課題について（2）課題の添削						
第6回：3和音の第1転回位置の連結（1）理論の概説と小問の実施						
第7回：3和音の第1転回位置の連結（2）課題の添削						
第8回：3和音の第2転回位置の連結（1）理論の概説と小問の実施						
第9回：3和音の第2転回位置の連結（2）課題の添削						
第10回：属七の和音の連結（1）理論の概説と小問の実施						
第11回：属七の和音の連結（2）課題の添削						
第12回：和声の発展 借用和音（1）副属和音、準固有和音の概説						
第13回：和声の発展 借用和音（2）短調の借用和音の概説						
第14回：和声の発展 その他の和声進行について						
テキスト						
和声－理論と実習（音楽之友社）第1巻 その他、必要なプリントを隨時配布する。						
参考書・参考資料等						
必要に応じて紹介する。						

学生に対する評価

学期末レポートの点数 30%、平常授業での課題提出 50%、積極的授業参加度 20%で評価する。

授業科目名：作曲法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名： 山内雅弘			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び 諸民族の音楽を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
合唱編曲・吹奏楽編曲・ピアノ編曲のために必要となる理論の基礎を習得することをねらいとする。合唱編曲・吹奏楽編曲・ピアノ編曲ができるようになることを目標とする。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要						
・重音による編曲、合唱編曲（二部合唱・三部合唱・四部合唱）の方法と実習 ・楽器法（管弦楽法を含む）吹奏楽編曲の方法と実習・ピアノの伴奏編曲の方法と実習						
授業計画						
第1回：編曲の基礎（1）予備知識						
第2回：編曲の基礎（2）重音による編曲						
第3回：合唱編曲の実際（1）二部合唱の編曲						
第4回：合唱編曲の実際（2）二部合唱編曲の実例分析						
第5回：合唱編曲の実際（3）三部合唱の編曲						
第6回：合唱編曲の実際（4）三部合唱編曲の実例分析						
第7回：合唱編曲の実際（5）四部合唱の編曲						
第8回：楽器法（1）楽器の発音の仕組み、木管楽器について、金管楽器について						
第9回：楽器法（2）打楽器、弦楽器について、スコアの研究						
第10回：吹奏楽編曲の実際（1）スケッチの作成						
第11回：吹奏楽編曲の実際（2）編曲の方法						
第12回：吹奏楽編曲の実際（3）編曲の実習						
第13回：ピアノ編曲の実際（1）ピアノ伴奏について						
第14回：ピアノ編曲の実際（2）ピアノ編曲の実習						
テキスト						
特に指定しない。授業の都度プリントを配布する。						
参考書・参考資料等						

必要に応じて隨時紹介する。

学生に対する評価

学期末レポートの点数30%、平常授業での課題提出50%、積極的授業参加度20%で評価する。

授業科目名：音楽学概論A	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：吉川 文 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）（中学校及び高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標	西洋音楽の歴史を概観し、それぞれの時代の音楽の特徴を理解する。音楽がどのような理論に基づくものであるのかを把握すると共に、それぞれの音楽の社会的背景についての知見を持つことを目指す。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。		
授業の概要	古代・中世から20世紀までの各時代の音楽を具体例に沿って通観し、それぞれの音楽の様式的・理論的特徴を解説する。併せて、音楽や音楽に携わる人々と社会との関わりについて概観する。		
授業計画	第1回：音楽史を学ぶということ・西洋音楽の源流 第2回：中世の音楽① 单旋律の音楽 第3回：中世の音楽② 多声の音楽の展開 第4回：ルネサンスの音楽① 宗教音楽 第5回：ルネサンスの音楽② 世俗音楽、器楽 第6回：バロックの音楽① オペラ・声楽曲 第7回：バロックの音楽② 器楽曲 第8回：前古典派・古典派の音楽① 前古典派から古典派へ 第9回：前古典派・古典派の音楽② ウィーン古典派 第10回：19世紀の音楽① 19世紀前半の音楽 第11回：19世紀の音楽② 19世紀後半の音楽 第12回：20世紀の音楽① 世紀末から20世紀へ 第13回：20世紀の音楽② 戦中・戦後の音楽 第14回：20世紀から21世紀へ・まとめと定期試験		
テキスト	久保田慶一他著 決定版『はじめての音楽史』（音楽之友社）		
参考書・参考資料等	必要に応じて授業内で隨時紹介する。		
学生に対する評価	通常時の授業内での小課題への取り組み状況（60%）と、定期試験（40%）から総合的に判断する。		

授業科目名： 音楽学概論B	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤徹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 古代から近代に至る日本音楽史の展開を理解し、日本の伝統音楽の特徴と日本の音楽文化の特質を把握し、各自が自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。						
授業の概要 古代から近代にかけての日本音楽史の歴史的展開及び各時代の遺産として現在に伝えられている伝統音楽の特徴や現状を概説する。授業は視聴覚資料を活用しながら実施する。						
授業計画 第1回：総説：日本音楽史の対象と時代区分など 第2回：古代1：古代総論 第3回：古代2：雅楽以前から雅楽の形成へ 第4回：古代3：仏教の伝来と音楽 第5回：古代4：雅楽の大成 第6回：中世1：中世総論 第7回：中世2：仏教の普及と音楽・芸能の展開 第8回：中世3：能楽の大成 第9回：中世4：雅楽と声明の中世 第10回：近世1：近世総論 第11回：近世2：江戸幕府と音楽 第12回：近世3：町人の音楽文化1 遊芸の諸相（地歌、箏曲など） 第13回：近世4：町人の音楽文化2 芝居と音楽（歌舞伎、人形浄瑠璃など） 第14回：近現代の日本音楽 期末試験						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 日本音楽基本用語辞典（音楽之友社）、その他に授業中に適宜資料を配布する。						
学生に対する評価						

小レポート (40%)、期末試験 (60%)

授業科目名：音楽学概論C	教員の免許状取得のための選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：島添 貴美子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校音楽）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽（小学校） ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、民族音楽学の視点から世界の諸民族がもつ音楽を、音楽構造の分析、政治、社会習慣、文化的価値観などとの関わりから学ぶ。小・中・高等学校の音楽の授業で必要となる基礎的な力を身につける。自分の文化の音楽現象と比較しながら異文化の音楽とは何か、自文化の音楽とは何かについて考察することが目標である。また、講義のなかに実習も時々入れる。頭だけではなく体で体験して理解して欲しい。						
授業の概要 授業は下記の 3 つの内容で構成されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1 民族音楽学の定義と方法を概観する 2 異文化の音に触れる 3 異文化の音を、それをとりまく社会的な文脈から学ぶ 授業では、日本を含む、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアからいくつかの民族の音や音楽を例にあげて説明する。						
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ●民族音楽学の定義と方法を概観する 第1回：民族音楽学とは（定義と範囲） 第2回：フィールドワークとは 第3回：音楽民族誌 第4回：採譜と音の記録 第5回：楽器学1歴史 第6回：楽器学2分類						
<ul style="list-style-type: none"> ●異文化の音に触れる 第7回：体と音 第8回：音体系（音の高さの理論） 第9回：リズム						

第10回：音楽のメッセージ性 1 メッセージを伝える

第11回：音楽のメッセージ性 2 物語を語る

●異文化の音をとりまく社会的な文脈から学ぶ

第12回：音楽家

第13回：政治と音楽

第14回：ワールドミュージック

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』音楽之友社、1999年。

柘植元一『世界音楽の時代』音楽之友社、1990年。

Rice, Timothy. Ethnomusicology: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press, 2014.

増野亜子編『民族音楽学12の視点』音楽之友社、2016年。

島添貴美子『民謡とは何か?』音楽之友社、2021年。

そのほか、適宜、授業中に紹介する。

学生に対する評価

平常点評価60%（オンデマンド授業の場合は、各授業後に小テストを行う。対面授業の場合は、数回の課題を出す。）、最終課題40%（授業内容についての記述課題、またはフィールドワークによるレポートのいずれかを選択）

授業科目名：図画工作科研究	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：相田隆司、石井壽郎、古瀬政弘、宮里明人、鉢矢悦朗、正木賢一、小池研二、立川泰史、岡野茜、横田（高野）浩子、村上保、横谷奈歩、横内克之、大櫃重剛、濱脇みどり 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作					
授業のテーマ及び到達目標						
図画工作科における表現と鑑賞に関する演習を通して、教科指導に必要な知識理解と実践的指導力を身につける。						
授業の概要						
図画工作科の各領域に関する題材演習を通して、表現及び鑑賞の内容に関する製作や活動と学習成果に関する交流や省察を行い、教科指導に必要な知識と実践的指導力を身につける。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション 図画工作科の目標と内容、育成する資質・能力について解説と演習を通して理解する。						
第2回：演習1 A(1)ア,A(2)ア,共(1) 造形遊び演習（材料を基にした活動の演習）						
第3回：演習2 A(1)ア,A(2)ア,共(1) 造形遊び演習（材料・場所を基にした活動の演習）						
第4回：演習3 A(1)ア,A(2)ア,共(1) 造形遊び演習（身近な周囲の環境と造形活動）						
第5回：演習4 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 絵に表す演習（主題を表す活動低学年）						
第6回：演習5 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 絵に表す演習（主題を表す活動中学年）						
第7回：演習6 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 絵に表す演習（発想・構想/技能を高める活動低学年）						
第8回：演習7 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 立体に表す演習（発想・構想/技能を高める活動中学年）						
第9回：演習8 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 立体に表す演習（発想・構想/技能を高める活動高学年）						
第10回：演習9 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 工作に表す演習（発想・構想/技能を高める活動中学年）						
第11回：演習10 A(1)イ,A(2)イ,共(1) 工作に表す演習（発想・構想/技能を高める活動高学年）						
第12回：演習11 B(1),共(1) 鑑賞する活動（鑑賞教材 アートカード演習）						
第13回：演習12 B(1),共(1) 鑑賞する活動（親しみのある作品と鑑賞の活動）						
第14回：図画工作の授業づくりに関する協議と発表、総括とポートフォリオのまとめ						
定期試験は実施しない						

テキスト

- ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年6月 文部科学省）
- ・教科書「図画工作」1～6年

参考書・参考資料等

- ・図工・美術科教育（教科教育学シリーズ08）（平成27年4月、一藝社）
- ・図画工作・美術教育関係ビデオ教材、教材研究資料等

学生に対する評価

ポートフォリオ（80%）、グループ発表時提出レポート（20%）

授業科目名： 絵画基礎Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 清野泰行、花澤洋太 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作（小学校） ・絵画（映像メディア表現を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 <p>絵画表現（映像メディア表現を含む）の基礎を学び、観察と描写を通じて基本的な要素の理解と表現力の習得をねらいとする。</p> <p>この授業科目の履修を通じて、受講生が絵画や図画の基礎的な表現について理解した上で、作品制作ができるようになることを到達目標とする。</p>						
授業の概要 <p>前半は鉛筆デッサンを通じて構図・立体感・質感等の絵画や図画の基礎を学ぶと同時に、素描表現の可能性を探る。後半はフォトコラージュ、トリックアート等を通じて構成力・表現力を身に付ける。</p>						
授業計画 <p>第1回：ガイダンス、絵画表現について（担当：清野泰行、花澤洋太）</p> <p>第2回：絵画表現・デッサン1- 静物画 単体（担当：花澤洋太）</p> <p>第3回：絵画表現・デッサン2- 静物画 複数形態の構成（担当：花澤洋太）</p> <p>第4回：絵画表現・デッサン3- 静物画 空間の構成（担当：花澤洋太）</p> <p>第5回：絵画表現・デッサン4- 風景画 日常風景（担当：花澤洋太）</p> <p>第6回：絵画表現・デッサン5- 風景画 私の風景（担当：花澤洋太）</p> <p>第7回：絵画表現・デッサン6- 風景画 心象風景（担当：花澤洋太）</p> <p>第8回：作品分析及び講評（担当：花澤洋太）</p> <p>第9回：映像メディア表現1～解説（担当：清野泰行）</p> <p>第10回：映像メディア表現2-「フォトコラージュ」（担当：清野泰行）</p> <p>第11回：作品分析及び講評（フォトコラージュ）第12回：</p> <p>第12回：トリックアート1 構想（担当：清野泰行）</p> <p>第13回：トリックアート2 描画（担当：清野泰行）</p> <p>第14回：作品分析及び講評（担当：清野泰行）</p>						
テキスト <p>適宜、必要に応じてプリントを配付する。</p>						
参考書・参考資料等						

授業中に適宜資料を配付したり参考作品等を紹介する。

学生に対する評価

課題への取り組み(制作ノート等を含む) 50%、提出作品の内容を 50 % として総合評価する。試験は行わない。

授業科目名： 絵画基礎II	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 清野泰行、横谷奈歩 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 図画工作 • 絵画（映像メディア表現を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 <p>観察力と表現力を養うための基礎となるデッサンを学ぶことをねらいとする。この授業科目の履修を通じて、受講生が対象物の構造の理解、明暗法、構図法、描画材料の特性を理解するなど、絵画や図画の基礎的な造形力を身に付けることを到達目標とする。</p>						
授業の概要 <p>初日はガイダンス。描画材である鉛筆または木炭を各自が選択し、人物デッサン及び自画像制作を行い、絵画や図画の基礎的な表現について学習する。</p>						
授業計画 <p>第1回：ガイダンス、絵画表現について 講義（担当：横谷奈歩、清野泰行）</p> <p>第2回：人物クロッキー1 形態、空間把握（担当：横谷奈歩）</p> <p>第3回：課題制作 人物デッサン1 下絵、構想（担当：横谷奈歩）</p> <p>第4回：課題制作 人物デッサン2 描画（担当：横谷奈歩）</p> <p>第5回：課題制作 人物デッサン3 描画・中間講評（担当：横谷奈歩）</p> <p>第6回：課題制作 人物デッサン4 描画と構成（担当：横谷奈歩）</p> <p>第7回：課題制作 人物デッサン5 描画・仕上げ（担当：横谷奈歩）</p> <p>第8回：作品分析及び講評（担当：横谷奈歩）</p> <p>第9回：課題制作 自画像制作について 講義（担当：清野泰行）</p> <p>第10回：課題制作 自画像制作1 下絵（担当：清野泰行）</p> <p>第11回：課題制作 自画像制作2 描画（担当：清野泰行）</p> <p>第12回：課題制作 自画像制作3 描画・中間講評（担当：清野泰行）</p> <p>第13回：課題制作 自画像制作4 描画・仕上げ（担当：清野泰行）</p> <p>第14回：作品分析及び講評（担当：清野泰行）</p>						
テキスト <p>適宜、必要に応じてプリントを配付する。</p>						
参考書・参考資料等 <p>授業中に適宜資料を配付したり参考作品等を紹介する。</p>						

学生に対する評価

課題への取り組み(制作ノート等を含む) 50%、提出作品の内容を 50 % として総合評価する。試験は行わない。

授業科目名 : 彫刻基礎 I	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2 単位	担当教員名 : 宮里 明人 朝野 浩行			
授業形態 : クラス分け・オムニバス						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 美術)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作 (小学校) ・彫刻 (中学校・高等学校)					
授業のテーマ及び到達目標						
彫刻の基礎的な授業であるため、彫刻と彫刻制作の基本的な内容を理解することを狙いとする。この授業科目の履修を通じて、受講生が彫刻と彫刻制作について理解し、彫刻についての概念と彫刻制作の方法を説明することができるようになることを到達目標とする。また小学校の図画工作で用いる素材や工作の教材を取り入れ、立体造形の基本的な概念や制作法を学習する。						
授業の概要						
彫刻の概念と立体作品の方法についての説明を行う。授業は彫刻制作のための様々な素材や用具を活用しながら実施する。小学校の図画工作で使用する素材や教材を用いて、立体作品の制作法や制作技術を学ぶ。						
授業計画						
第 1 回 : 彫刻基礎 I の概要。本授業の授業計画と評価基準について (担当 : 宮里・朝野)						
第 2 回 : 課題 1 (モデリング素材を使った作品制作) についての説明。アイデアスケッチの作成、作品制作の開始 (担当 : 宮里・朝野)						
第 3 回 : 課題 1 (モデリング素材を使った作品制作) の作品制作、中間発表 (担当 : 宮里・朝野)						
第 4 回 : 課題 1 (モデリング素材を使った作品制作) の作品制作、仕上げ (担当 : 宮里・朝野)						
第 5 回 : 課題 1 (モデリング素材を使った作品制作) の作品鑑賞と講評、レポート作成 (担当 : 宮里・朝野)						
第 6 回 : 課題 2 (カービング素材を使った作品制作) についての説明、アイデアスケッチの作成、作品制作の開始 (担当 : 宮里・朝野)						
第 7 回 : 課題 2 (カービング素材を使った作品制作) の作品制作、中間発表 (担当 : 宮里・朝野)						
第 8 回 : 課題 2 (カービング素材を使った作品制作) の作品制作、仕上げ (担当 : 宮里・朝野)						

第 9 回：課題 2（カービング素材を使った作品制作）の作品鑑賞と講評、レポート作成（担当：宮里・朝野）

第 10 回：課題 3（集合彫刻としての作品制作）についての説明、アイデアスケッチの作成、作品制作の開始（担当：宮里・朝野）

第 11 回：課題 3（集合彫刻としての作品制作）の作品制作（担当：宮里・朝野）

第 12 回：課題 3（集合彫刻としての作品制作）の作品制作、中間発表（担当：宮里・朝野）

第 13 回：課題 3（集合彫刻としての作品制作）の作品制作、仕上げ（担当：宮里・朝野）

第 14 回：課題 3（集合彫刻としての作品制作）の作品鑑賞と講評、レポート作成、授業まとめ（担当：宮里・朝野）

テキスト：エリック・R・カンデル著「脳はなぜアートが分かるか」青土社、など

参考書・参考資料等：参考資料はコピー資料として適宜配布

学生に対する評価：授業レポート 20%、作品の提出状況 40%、作品評価 40% を総合的に評価する。

授業科目名：彫刻基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2 単位	担当教員名：朝野浩行 宮里明人			
授業形態：クラス分け・オムニバス						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作（小学校） ・彫刻（中学校及び高等学校）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>彫刻制作の基本的な内容と小学校の図画工作および、中・高の美術に用いる素材を理解することを狙いとする。彫刻についての概念と彫刻制作の方法を自ら見いだせることを到達目標とする。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>彫刻の概念と小学校の図画工作および、中・高の美術の立体作品の方法についての説明を行う。授業は彫刻制作のための様々な素材や用具を活用しながら実施する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業計画等についてのガイダンス（担当：朝野・宮里）</p> <p>第2回：国内作家彫刻作品の考察（担当：朝野・宮里）</p> <p>第3回：国外作家彫刻作品の考察（担当：朝野・宮里）</p> <p>第4回：素材の考察（担当：朝野・宮里）</p> <p>第5回：彫刻制作のための素材演習（担当：朝野・宮里）</p> <p>第6回：彫刻制作台の準備（担当：朝野・宮里）</p> <p>第7回：彫刻制作 形だし（担当：朝野・宮里）</p> <p>第8回：彫刻制作 形整え（担当：朝野・宮里）</p> <p>第9回：彫刻制作 形仕上げ準備（担当：朝野・宮里）</p> <p>第10回：彫刻制作 形仕上げ整え（担当：朝野・宮里）</p> <p>第11回：彫刻制作 仕上げ（担当：朝野・宮里）</p> <p>第12回：彫刻作品発表 講評（担当：朝野・宮里）</p> <p>第13回：彫刻柵人発表 鑑賞 授業レポート下書き（担当：朝野・宮里）</p> <p>第14回：授業レポートの作成、授業まとめ（担当：朝野・宮里）</p>						
<p>テキスト：必要に応じて適切なテキストを適宜紹介</p>						
<p>参考書・参考資料等：必要に応じて参考資料はコピー資料として適宜配布</p>						
<p>学生に対する評価：授業レポート20%、発表15%、作品評価65%を総合的に評価する。</p>						

授業科目名：デザイン 基礎 I	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 鉄矢悦朗 正木賢一
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校 美術、高等學校 美術、高等学校 工芸）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 図画工作（小学校） • デザイン（映像メディア表現を含む。）（中学校 美術、高等學校 工芸） • デザイン（高等学校 工芸）		
授業のテーマ及び到達目標	目的表現であるデザインの基礎的な技術と理論を体得することをねらいとする。図画工作で扱う題材・技法を含む平面表現と立体表現の作品制作を通じて自らのデザイン思考を深め、その考えを効果的にプレゼンテーションできることを到達目標とする。		
授業の概要	グラフィックデザイン（図画工作で扱う題材・技法を含む平面表現）と環境プロダクトデザイン（図画工作で扱う題材・技法を含む立体表現）における基礎的な演習課題を行う。		
授業計画	第1回：デザイン概論 第2回：課題A（平面）の導入 第3回：課題A（平面）の制作・進行（調査・考察） 第4回：課題A（平面）の制作・進行（構想） 第5回：課題A（平面）の制作・進行（中間確認） 第6回：課題A（平面）の制作・進行（試作） 第7回：課題A（平面）の制作・進行（仕上げ） 第8回：課題B（立体）の導入 第9回：課題B（立体）の制作・進行（調査・考察） 第10回：課題B（立体）の制作・進行（構想） 第11回：課題B（立体）の制作・進行（中間確認） 第12回：課題B（立体）の制作・進行（試作） 第13回：課題B（立体）の制作・進行（仕上げ） 第14回：課題A・Bの最終プレゼンテーション（講評）		
テキスト	特に定めない。		

参考書・参考資料等

「世界のデザイン史」阿部公正監修 美術出版

学生に対する評価

提出作品・プレゼンテーション（70%）、デザインプロセス（20%）、レポート等（10%）を通じて総合的に評価する。

授業科目名：デザイン基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 鉄矢悦朗 正木賢一		
	担当形態： 複数				
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校 美術、高等学校 美術、高等学校 工芸）			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 • 図画工作（小学校） • デザイン（映像メディア表現を含む。）（中学校 美術、高等学校 工芸） • デザイン（高等学校 工芸）			
授業のテーマ及び到達目標 「デザイン基礎I」の授業をふまえ、目的表現であるデザインの基礎的な技術と理論をより実践的に体得することをねらいとする。図画工作で扱う題材・技法を含む平面表現と立体表現の作品制作を通じて自らのデザイン思考を深め、その考えを効果的にプレゼンテーションすることを到達目標とする。					
授業の概要 グラフィックデザイン（図画工作で扱う題材・技法を含む平面表現）と環境プロダクトデザイン（図画工作で扱う題材・技法を含む立体表現）における基礎的な演習課題を行う。					
授業計画 第1回：デザイン概論 第2回：課題A（平面）の導入 第3回：課題A（平面）の制作・進行（調査・考察） 第4回：課題A（平面）の制作・進行（構想） 第5回：課題A（平面）の制作・進行（中間確認） 第6回：課題A（平面）の制作・進行（試作） 第7回：課題A（平面）の制作・進行（仕上げ） 第8回：課題B（立体）の導入 第9回：課題B（立体）の制作・進行（調査・考察） 第10回：課題B（立体）の制作・進行（構想） 第11回：課題B（立体）の制作・進行（中間確認） 第12回：課題B（立体）の制作・進行（試作） 第13回：課題B（立体）の制作・進行（仕上げ）					

第14回：課題A・Bの最終プレゼンテーション（講評）

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

「世界のデザイン史」阿部公正監修 美術出版

学生に対する評価

提出作品・プレゼンテーション（70%）、デザインプロセス（20%）、レポート等（10%）を通じて総合的に評価する。

授業科目名： 工芸基礎 I	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井壽郎・古瀬政弘 担当形態： オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校美術及び高等学校工芸）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 図画工作（小学校） • 工芸（中学校美術） • 工芸制作（プロダクト制作を含む）（高等学校工芸）					
授業のテーマ及び到達目標 工芸の基礎制作を通して、素材の特性理解及び基礎的工具の使用法を学ぶ。この授業科目を履修することを通して、受講生が工作及び工芸全般に関する素材の特性を活かした題材観について理解することを到達目標とする。						
授業の概要 工芸素材（土、金属）を課題A（前半）と課題B（後半）に分けて制作する。最後に作品鑑賞や授業の振り返りを通して工作及び工芸全般における授業題材としての学びを考察する。						
授業計画 第1回：課題A（陶芸）の説明及びデザイン上の注意点について（担当：石井壽郎） 第2回：課題A（陶芸）土練り（担当：石井壽郎） 第3回：課題A（陶芸）成形：手びねり（担当：石井壽郎） 第4回：課題A（陶芸）成形：ひもづくり（担当：石井壽郎） 第5回：課題A（陶芸）成形：細部の仕上げ及び素焼き方法について（担当：石井壽郎） 第6回：課題A（陶芸）施釉及び本焼き焼成方法について（担当：石井壽郎） 第7回：課題A（陶芸）作品鑑賞及び授業のまとめ（担当：石井壽郎） 第8回：課題B（金属工芸）の説明及びデザイン上の注意点について（担当：古瀬政弘） 第9回：課題B（金属工芸）真鍮板の金型制作：糸鋸による材料取り（担当：古瀬政弘） 第10回：課題B（金属工芸）真鍮板の金型制作：鏝による仕上げ（担当：古瀬政弘） 第11回：課題B（金属工芸）銅板の焼鈍及び打ち出し（担当：古瀬政弘） 第12回：課題B（金属工芸）銅板の打ち出し（担当：古瀬政弘） 第13回：課題B（金属工芸）表面処理及び着色について（担当：古瀬政弘） 第14回：課題B（金属工芸）作品鑑賞及び授業のまとめ（担当：古瀬政弘）						
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。						

参考書・参考資料等

文部科学省教科書、高等学校「工芸 I」 日本文教出版株式会社

学生に対する評価

課題作品提出50%、授業への参加態度30%、小レポート20%

授業科目名： 工芸基礎II	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井壽郎・古瀬政弘 担当形態： オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校美術及び高等学校工芸）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 図画工作（小学校） • 工芸（中学校美術） • 工芸制作（プロダクト制作を含む）（高等学校工芸）					
授業のテーマ及び到達目標 工芸の基礎制作を通して、素材の特性理解及び基礎的工具の使用法を学ぶ。この授業科目を履修することを通して、受講生が工作及び工芸全般に関する題材観及び教材観について理解を深めることを到達目標とする。						
授業の概要 工芸素材（土、金属）の2つを課題A（前半）と課題B（後半）に分けてそれぞれ制作する。最後に作品鑑賞や授業の振り返りを通して、工作及び工芸全般における素材、技法、身体を通しての制作活動の意義について考察する。						
授業計画 第1回：課題A（陶芸）の説明及びデザイン上の注意点について（担当：石井壽郎） 第2回：課題A（陶芸）土練り（担当：石井壽郎） 第3回：課題A（陶芸）成形：手びねり（担当：石井壽郎） 第4回：課題A（陶芸）成形：ひもづくり（担当：石井壽郎） 第5回：課題A（陶芸）成形：細部の仕上げ及び素焼き方法について（担当：石井壽郎） 第6回：課題A（陶芸）施釉及び本焼き焼成方法について（担当：石井壽郎） 第7回：課題A（陶芸）作品鑑賞及び授業のまとめ（担当：石井壽郎） 第8回：課題B（金属工芸）の説明及びデザイン上の注意点について（担当：古瀬政弘） 第9回：課題B（金属工芸）模様づくり及び材料取り（担当：古瀬政弘） 第10回：課題B（金属工芸）焼鈍及び模様の打ち込み作業（担当：古瀬政弘） 第11回：課題B（金属工芸）模様の打ち込み作業及び仕上げ（担当：古瀬政弘） 第12回：課題B（金属工芸）仕上げ及び穴あけ（担当：古瀬政弘） 第13回：課題B（金属工芸）表面処理及び着色について（担当：古瀬政弘） 第14回：課題B（金属工芸）作品鑑賞及び授業のまとめ（担当：古瀬政弘）						
テキスト						

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省教科書、高等学校「工芸 I」 日本文教出版株式会社

学生に対する評価

課題作品提出50%、授業への参加態度30%、小レポート20%

授業科目名： 日本東洋美術史概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村ひの 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 美術、高等学校 工芸）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作（小学校） ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術 を含む。）（中学校及び高等学校 美術） ・工芸理論・デザイン理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及 びアジアの工芸を含む。）（高等学校 工芸）		
授業のテーマ及び到達目標	1) 美術とは何か、自分なりの考えを持つこと。2) 東アジア美術史と関連させながら、古代 から近現代に至る日本美術史の潮流と特色を概観し、美術と工芸への理解を深める。3) 学校 教育の現場に立つ教員として鑑賞等の授業内容を実施する上で必要となる、日本東洋美術史の 知識を身に付ける。		
授業の概要	初等および中等教育の鑑賞の授業を想定し、そこで扱われる絵画や彫刻を近世以前の日本東洋 美術を中心に、さまざまな作品とその制作背景を、時代順に概観する。作品に内在する独特的 な美意識や文化の深層を探るとともに、現代社会とどのような関わりを持つかについて学ぶ。		
授業計画	第1回：ガイダンス 日本美術史はいつから始まるか 第2回：日本美術史の「あけぼの」—縄文時代と弥生時代— 第3回：ムラから国家へ—弥生末から古墳時代— 第4回：仏教伝来と美術 I—伽藍の造営と仏像— 第5回：仏教伝来と美術 II—仏教と宮廷の絵画— 第6回：国家事業と美術 I—正倉院宝物に見る国際性— 第7回：国家事業と美術 II—鎮護国家思想と密教— 第8回：来世への憧れを造形する—来迎の美術— 第9回：院政期の絵巻—絵巻作品の主題と表現— 第10回：武士の信仰と芸能—文化の享受者としての武士— 第11回：鎌倉仏教と美術—信仰と尊崇を描く— 第12回：禅の美術—頂相と水墨画— 第13回：中世の屏風と障壁画—大画面と空間演出— 第14回：御伽草子絵巻と中世の民衆—文化の担い手の拡大— テーマに沿った課題レポートを作成・提出する。		
テキスト			

特に定めない

参考書・参考資料等

参考文献 「増補新装 カラー版日本美術史」（監修：辻惟夫、出版：美術出版社、2003年） 「日本美術史ハンドブック」等の概論書や全集などを各自活用。

学生に対する評価

評価割合は授業への参加状況を40%、レポート内容の評価を60%とし、内容理解度を基に評価する。

授業科目名：西洋美術史概論	教員の免許状取得のための選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2 単位	担当教員名：尾関 幸 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 古代から近代までの美術史の基本的な流れを俯瞰した上で、小中学校の鑑賞教育で扱われる代表的な西洋美術の作品の様式や技法を、その背景にある歴史的・社会的事項との連関をも含めて理解する。						
授業の概要 古代から近代までの西洋美術の代表的作品を示し、図画工作や美術の授業で求められる作品への初步的なアプローチが、社会背景を含めた高度な作品理解へと発展的に繋がるような鑑賞法を探求する。時代背景によって形成された様式と、作り手の資質とのせめぎあいに注目し、個々の作品が紡ぎだす美術史という視点を重視しながら進める。						
授業計画 <p>第1回：先史時代～エジプト～ギリシャ美術の古典古代期</p> <p>第2回：ギリシャ美術 盛期クラシック期～ヘレニズム美術～ローマ美術</p> <p>第3回：ローマ美術から初期キリスト教美術～ロマネスク美術</p> <p>第4回：ゴシック美術</p> <p>第5回：初期ルネッサンス美術（1400年前後）</p> <p>第6回：盛期ルネッサンス美術（1500年前後）</p> <p>第7回：北方ルネッサンス美術</p> <p>第8回：マニエリスム美術</p> <p>第9回：バロック美術～古典主義への回帰 ボロニーヤ派からフランス・バロックへ</p> <p>第10回：バロック美術～自然主義への道 ローマからオランダへ</p> <p>第11回：ベルギーとオランダの17世紀</p> <p>第12回：18世紀美術 ロココ</p> <p>第13回：大革命の時代</p> <p>第14回：ロマン主義</p>						
テキスト 使用しない						
参考書・参考資料等						

授業中に指示

学生に対する評価

出席 20%、小レポート30%、期末レポート50%

授業科目名：美学	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2 単位	担当教員名：入江繁樹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作（小学校） ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）（中学校及び高等学校 美術）					
授業のテーマ及び到達目標：古代ギリシアから19世紀までを範囲にした上で、「美」と「芸術」に関する主な学説を紹介・解説する。「美」や「芸術」等の概念がけっして普遍妥当的なものではなく、歴史と共に絶えず変化・複雑化しつつある実態を理解させることが本授業の目標である。なお図画工作科の授業を想定した学びに配慮し、生活から芸術作品にいたるまで多様な場面での「美」の諸相を認識する態度を身に着ける。						
授業の概要：古代から近代に至る9人の哲学者・美学者に注目した上で、その美論・芸術論を順次概説する。						
授業計画 第1回：導入——「美学」とは何か—— 第2回：古代ギリシアの美論——プラトン『パидロス』『国家』—— 第3回：古代ギリシアの芸術論——アリストテレス『詩学』—— 第4回：中世ヨーロッパにおける芸術の位置づけ——ロマネスク・ゴシック期の絵画・彫刻を中心に—— 第5回：ルネサンス期における「芸術家」の誕生——ダ・ヴィンチ『絵画論』を中心に—— 第6回：18世紀啓蒙主義美学(1)——カント『判断力批判』の「美的判断」論—— 第7回：18世紀啓蒙主義美学(2)——カント『判断力批判』の「崇高」論—— 第8回：18世紀啓蒙主義美学(3)——カント『判断力批判』の「天才」論—— 第9回：18世紀古典主義美学——シラー『人間の美的教育について』—— 第10回：19世紀ロマン主義美学(1)——シュレーゲル『アテネーウム断章』—— 第11回：19世紀ロマン主義美学(2)——シェリング『芸術の哲学』—— 第12回：19世紀観念論美学——ヘーゲル『美学講義』—— 第13回：19世紀における「芸術学」の成立(1)——ハンスリック『音楽美論』—— 第14回：19世紀における「芸術学」の成立(2)——フィードラー『芸術活動の根源』—— 定期試験 テキスト：担当教師がレジュメを作成・配布。						
参考書・参考資料等：授業中に適宜指示。						

学生に対する評価：定期試験による。

授業科目名 : 家庭科研究	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 1単位	担当教員名 : 倉持清美・萬羽 郁子・星野 亜由美・塚崎 舞 ・田中敬文			
担当形態 : オムニバス						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭					
授業のテーマ及び到達目標						
小学校で家庭科を教えるために必要な基本的な知識と実践的・応用能力を学ぶ。具体的には、家族・食物・被服・住居・家庭経営に関連した複数の分野について、学生が偏りなく知識と実践的・応用的能力を持てるようになることを目標とする。						
授業の概要						
家族・食物・被服・住居・家庭経営に関連した複数の分野について、専門的知識を有する教員がオムニバス形式で授業を行う。						
授業計画						
第1回 : ガイダンス、家族・家庭生活 : 小学校高学年で家庭科を学ぶ意義、家庭生活とは何か、 家庭の仕事と生活時間、試験 (倉持)						
第2回 : 衣生活 : 衣服の着用、衣服の手入れ (塚崎)						
第3回 : 衣生活 : 布を使った製作学習、試験 (塚崎)						
第4回 : 食生活 : 現代の食生活、栄養と献立 (星野)						
第5回 : 食生活 : 調理の基礎と調理室の管理、試験 (星野)						
第6回 : 消費生活・環境 : 収入と消費のバランス、消費者としての知識、環境と消費、試験 (田中)						
第7回 : 住生活 : 住まいの働きと役割、住まいの環境調整、住まいの管理、試験 (萬羽)						
テキスト						
大竹美登利・倉持清美 編著 : 初等家庭科の研究 一指導力につなげる専門性の育成, 萌文書林						
参考書・参考資料等						
文部科学省 : 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 家庭編, 東洋館出版社						
鳴海多恵子, 石井克枝, 堀内かおる 他 : わたしたちの家庭科5・6, 開隆堂						
浜島京子, 岡陽子 他 : 新しい家庭5・6, 東京書籍						
学生に対する評価						
各担当教員が課すレポート(50%)、試験(50%)						

授業科目名 : 家庭経営学 概論	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2単位	担当教員名 : 田中 敬文 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 家庭)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 家庭 (小学校) • 家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む。) (中学校及び 高等学校)					
授業のテーマ及び到達目標 収入と支出のバランスについて、可処分所得や黒字等の基礎用語を理解できるとともに、子育て・教育費や住居購入等について基礎知識を身に付ける。家族の自己実現をはかるため、家計の経済行動と意思決定論の基礎を習得できることを目標とする。						
授業の概要 家族の自己実現をはかるため、ライフサイクルの変化と社会経済動向を概観し、意思決定論の基礎を学ぶ。また、家計の経済行動の基礎を得るため、「家計調査」等を用いて年齢階層別の家計収支等について学ぶ。これらの学習を通して、小学校家庭科における物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活、中学校家庭科における購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理、高等学校家庭科における生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性などの指導において必要な基礎的知識を習得する。						
授業計画 第1回 : 意思決定論入門 第2回 : 家庭経営の目標と手段 第3回 : 家庭経営における価値 第4回 : 家計のライフサイクルの変化と社会・経済動向 第5回 : 「家計調査」の読み方 第6回 : 世帯主年齢階級別家計収支の特徴1: 収入 第7回 : 世帯主年齢階級別家計収支の特徴2: 消費 第8回 : 世帯主年齢階級別家計収支の特徴3: 貯蓄 第9回 : 世帯主年齢階級別家計収支の特徴4: グループごとの発表 第10回 : 非消費支出(所得税と社会保険料)について 第11回 : 子育て家計への支援について 第12回 : いわゆる「103万円の壁」「130万円の壁」とは何か? 第13回 : 「家族の経済学」の考え方について 第14回 : まとめ						

定期試験
テキスト
大竹美登利・倉持清美編著『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』萌文書林
参考書・参考資料等
授業時間中に適宜指示する
学生に対する評価: 試験70%、講義中の課題提出とプレゼンテーション30%

授業科目名 : 家族関係学	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2単位	担当教員名 : 大野(鈴木)祥子			
			担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 家庭)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭 (小学校) ・家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む。) (中学校及び 高等学校)					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校5年生から始まる家庭科の授業で扱う家族の領域に対応できるように、身近な存在であるがゆえに自明視されがちな「家族」について、客観的に、また科学的に捉え、急速に変化し多様な様相を示す現代の家族現象を多面的に分析し、問題解決できる能力を身につける。</p> <p>1)家族を客観的、科学的に理解するために必要な、基本的概念や理論を説明できる。</p> <p>2)各ライフステージにおける家族に関する諸課題を説明できる。</p> <p>3)現代家族の実態を踏まえ、社会的サポートのあり方について思考することができる。</p> <p>4)多様な現代家族を取り巻く課題とサポートシステムについて、個々の課題を選択し、文献考査や統計的資料の分析に基づき、研究レポート作成、発表、意見交換をすることができる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>家族の変化を歴史的に概観し、伝統的家族、近代家族、現代家族の形態や機能を比較し、現代の家族像がどのように形成されてきたのかを説明する。その際、ジェンダー、セクシュアリティに敏感な視点で家族を見たときに見えてくる現代家族の問題点も論じる。また、各ライフステージにおける家族問題は社会によって変遷することを説明し、少子高齢化の急速な進行や家族問題の深刻化する時代において、家族をめぐる諸現象やその背景にある社会の変化の様相を客観的、科学的に把握し、問題解決に取り組む態度を養う。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 : ガイダンス、家族とは何か : 定義、法的な位置づけ</p> <p>第2回 : 家族の歴史的变化 : 伝統、近代、現代家族の特徴</p> <p>第3回 : 家族の多様化 : 形態、機能の変化</p> <p>第4回 : 人の成長と家族(1)乳幼児の発達と家族</p> <p>第5回 : 人の成長と家族(2)子育てにおける親の役割と保育</p> <p>第6回 : 人の成長と家族(3)子育てのストレス、子育て支援と社会的養護</p> <p>第7回 : 家庭生活と協力(1)家族役割分担 : 家族の中のジェンダー</p> <p>第8回 : 家庭生活と協力(2)結婚と夫婦関係の問題</p>						

第9回：家庭生活と協力(3)ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画社会

第10回：家族と地域・社会

第11回：家族ライフサイクル：各ライフステージにおける家族の課題

第12回：少子高齢化時代の家族の問題(1)親からの自立

第13回：少子高齢化時代の家族の問題(2)成人した子どもと親の関係

第14回：少子高齢化時代の家族の問題(3)高齢者と家族

テキスト

授業時に紹介します。

参考書・参考資料等

- ・落合恵美子. 2019 『21世紀家族へ 第4版』 有斐閣
- ・湯沢雍彦. 2014 『データで読む平成期の家族問題：四半世紀で昭和とどう変わったか』 朝日新聞出版
- ・長津美代子・小澤千穂子 編著. 2018 『改訂新しい家族関係学』 建帛社
- ・平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義. 2019 『家族の心理 第2版』 サイエンス社

学生に対する評価

期末レポート(25%)、リアクションペーパー・グループワーク等(25%)、提出物・小課題(50%)を総合的に評価する。

授業科目名： 被服学概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 塙崎 舞
	担当形態： 単独		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭（小学校） ・被服学（被服製作実習を含む）（中学校及び高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標	<p>被服のもつ役割と機能、素材の特性とそれらに適した手入れ方法と選び方に関する基礎的な知識と技術を身につけ、自然科学を基礎とする環境に配慮した選択行動を実践し、家庭科教育に活用できるようになることを目的とする。小学校家庭科における基本的な衣服の着用と手入れ、中学校および高等学校における人・社会を取り巻く衣生活に関する応用的な指導のために必要な知識と考えを習得する。</p>		
授業の概要	<p>多様化する被服の役割を整理し、第二の皮膚としての被服衛生学的特性を把握する。快適性や形態といった被服の特性や外観構成を学び、それらの要素に大きな影響を及ぼす繊維と布の構造を化学的、物理的に捉える。さらに、被服の洗浄と加工、染色の理論と方法、我が国の文化的側面について学習した後、これからの時代に求められる、サスティナブルな衣生活について自分の考えをまとめる。</p>		
授業計画	<p>第1回：ガイダンス、これからの被服に求められるもの 第2回：人体と被服の温熱 第3回：被服の水分特性とおい 第4回：風合い、快適性の評価と着装 第5回：被服形態の変遷と多様性の歴史 第6回：被服材料としての繊維と種類 第7回：糸と布の構造 第8回：機能性繊維とその利用 第9回：繊維製品の品質表示と手入れ 第10回：洗濯洗剤の成分としみ抜き、洗浄の仕組み 第11回：家庭洗濯と商業クリーニング、衣服の保管 第12回：被服の色彩と染色の仕組み 第13回：伝統文化としての染色</p>		

第14回：試験・まとめ

テキスト

岡田宣子他「ビジュアル衣生活論」（建帛社）

参考書・参考資料等

山口庸子他「衣生活論 持続可能な消費と生産」（アイ・ケイコーポレーション）

間瀬清美他「新版衣生活の科学テキスタイルから流通マーケットへ」（アイ・ケイコーポレーション）

田村照子他「衣環境の科学」（建帛社）

富田明美他「新版アパレル構成学」（朝倉書店）

中島利誠他「新稿被服材料学—概説と実験一」（光生館）

増子富美他「被服管理学」（朝倉書店）

（一社）日本衣料管理協会「染色加工学」

学生に対する評価

受講状況（10%）、授業レポート（20%）、定期試験（70%）

授業科目名:被服構成学	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：高橋美登梨 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 家庭）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 家庭（小学校）、被服学（被服製作実習を含む）（中学校及び高等 学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
我が国の衣生活文化における被服製作の位置づけを捉えるとともに、本授業での実習体験を踏まえ、被服製作学習の今日的意義を認識する。ハーフパンツの製作を通して製作物の構成および材料について理解するとともに、縫製技術を確実に習得することを目標とする。						
授業の概要						
被服と人体との関係や、布を人体に適合させ、着心地の良い被服に造形するための立体成型技法の科学性について学ぶ。被服の構成に関する基礎的な知識・技能の習得は被服製作学習を通して行う。これらの学習により、小学校・中学校での生活を豊かにするための布を用いた製作をはじめ、小学校の衣服の主な働き、中学校の衣服の選択、高等学校の被服構成の指導において必要な基礎的な知識・技能を習得する。						
授業計画						
第1回：衣服の機能・衣服の祖型・ライフサイクルと衣服（p.3-12）						
第2回：衣服の構成（1）体型と衣服設計（p.13-52）						
第3回：衣服の構成（2）洋服の設計（p.53-94）						
第4回：衣服の構成（3）きものの種類と構成（p.95-107）						
第5回：衣服の素材と製作技法（p.109-122）						
第6回：ミシンの操作方法の基礎（ロックミシンを含む）						
第7回：ハーフパンツの製作（1）裁断・印付け						
第8回：ハーフパンツの製作（2）布端の処理・脇縫い						
第9回：ハーフパンツの製作（3）ポケット付け						
第10回：ハーフパンツの製作（4）股下縫い、裾縫い						
第11回：ハーフパンツの製作（5）股ぐり縫い						
第12回：ハーフパンツの製作（6）ウエストベルト付け						
第13回：ハーフパンツの製作（7）ゴム通し、仕上げ						
第14回：まとめ（着装会を含む）						
定期試験は実施しない。						
テキスト						

衣の科学シリーズ 衣服製作の科学、松山容子編、建帛社、ISBN 948-4-7679-1046-3

参考書・参考資料等

高等学校家庭科教科書「ファッション造形基礎」（実教出版）

学生に対する評価

製作活動への姿勢 20%（製作進度や正確さ、製作活動における計画性や主体性）

作品 45%（完成作品および製作途中の提出物）

レポート 35%（製作に関する知識および被服製作学習の意義に関する課題をまとめる）

授業科目名 : 栄養学概論	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2 単位	担当教員名 : 星野亜由美 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 家庭)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 家庭 (小学校) • 食物学 (栄養学, 食品学及び調理実習を含む。) (中学校及び高 等学校)					
授業のテーマ及び到達目標 生命維持に欠かせない食について, 現代の食生活を取り巻く課題を理解し, 健康的な食生活を営むために必要な栄養素に関する生化学的な知識を身に付ける。栄養的課題, 栄養素の種類, 役割, 生体内代謝やバランスのよい栄養摂取を可能にするための食品の組み合わせに関する基礎的な知識を習得することを目標とする。						
授業の概要 まず, 現代の食生活を取り巻く課題について概説する。次に, 食品中に含まれる栄養素の種類や役割, 生体内代謝について説明する。後半には, バランスのよい栄養摂取を考える上での基礎となる食事摂取基準や食品成分表, 食品摂取の目安について説明する。これらの学習を通して, 小学校家庭科における栄養を考えた食事, 中学校家庭科における中学生に必要な栄養を満たす食事, 高等学校家庭科における食事と健康などの指導において必要な基礎的知識を習得する。						
授業計画 第1回 : ガイダンス, 現代の栄養的課題 第2回 : 食品成分と栄養, 消化と吸收 第3回 : 炭水化物の種類 第4回 : 炭水化物の役割 第5回 : 脂質・脂肪酸の種類 第6回 : 脂質の役割と生理作用 第7回 : たんぱく質・アミノ酸の種類 第8回 : たんぱく質の栄養価と役割 第9回 : ビタミン 第10回 : ミネラル 第11回 : エネルギー代謝, 食事摂取基準 第12回 : 食品成分表と食品群, 食品摂取の目安 第13回 : 授業のまとめと復習テスト						

第14回：これからの食生活

定期試験は実施しない。

テキスト

杉山英子・小長谷紀子・里井恵子 著『基礎栄養学』化学同人)

参考書・参考資料等

授業の中で紹介していく。

学生に対する評価

復習テスト (75%) , 課題への取組み状況 (25%)

授業科目名：調理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：南 道子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 家庭）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭（小学校） ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標：調理の正しい理解のため、調理学の基礎的な内容を理解することを目的とする。正しい食品選択から献立作成、調理操作、環境に配慮した片付けまでを含む事を知り、安全にかつ栄養に配慮したおいしい食物を摂取することを受講を通して学び、説明できるようになることを到達目標とする。						
授業の概要： 小学校家庭科で扱われる日常の食事と調理の基礎について理解するとともに、栄養を考えた食事、食品の栄養的な特徴と組み合わせ、中学校・高校家庭科の内容の1日に必要な食事の量を満たす献立を考えるとともに、共食の大切さを理解する。						
授業計画 第1回：ガイダンス、調理学の意義 第2回：日本の食、世界の食 第3回：食事摂取の基本 第4回：食べ物の嗜好性 第5回：献立作成の要件 第6回：調理品により摂取しうる有害物質 第7回：食中毒、食物アレルギー 第8回：非加熱調理操作と調理器具 第9回：加熱調理操作と調理器具 第10回：主に炭水化物を多く含む穀類の調理性 第11回：主にタンパク質を多く含む食品の調理性 第12回：主に脂質を多く含む食品の調理性 第13回：野菜、果物の調理性 第14回：定期試験と復習						
テキスト：調理学－生活の基盤を考える－（学文社）						
参考書・参考資料等： 調理と理論（同文書院）、8訂食品成分表						

学生に対する評価：定期試験70%、平常点（課題・発言）30%

授業科目名 : 住居学概論	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2単位	担当教員名 : 萬羽郁子 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 家庭)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 家庭 (小学校) • 住居学 (中学校) • 住居学 (製図を含む。) (高等学校)					
授業のテーマ及び到達目標 人間生活の器である住居の役割を理解し、住生活に関して居住者として必要な基礎的知識を身に付ける。住居の役割と機能、住居の歴史的変遷と生活の変化、室内の環境整備の必要性や維持管理方法についての知識を習得することを目標とする。						
授業の概要 まず、住居の役割や機能について説明する。次に、住居の歴史的変遷について概説し、間取り・生活の変化を学習した後、住まいの計画についての原則を説明する。後半には、室内環境と維持管理方法について説明し、健康・快適・安全な住まいについてまとめる。これらの学習を通して、小学校家庭科における季節の変化に合わせた住まい方や清掃の必要性と工夫、中学校家庭科における住居の役割や機能、家族と住まい、高等学校家庭科における住居の歴史的変遷やライフスタイルやライフステージに合わせた住まいの計画などの指導において必要な基礎的知識を習得する。						
授業計画 第1回 : ガイダンス, 住居の役割と機能 第2回 : 気候風土と住まい, 世界の住まい 第3回 : 住宅・住生活の変遷① : 古代～中世 第4回 : 住宅・住生活の変遷② : 近世の住宅 第5回 : 住宅・住生活の変遷③近代～現代 第6回 : 住まいの計画① : 住空間と生活行為 第7回 : 住まいの計画② : 家族や生活スタイルと住まい・ライフステージと住まい 第8回 : 住まいの計画③ : 住まいと安全・防災 第9回 : 住宅の選択と住政策 第10回 : 室内の環境整備① : 温熱環境・環境への配慮 第11回 : 室内の環境整備② : 空気環境 第12回 : 室内の環境整備③ : 光環境・音環境 第13回 : 住居の維持管理						

第14回：地域と住まい：地域コミュニティ・居住福祉、復習テスト

定期試験は実施しない。

テキスト

定行まり子・沖田富美子 編著『生活と住居』光生館

参考書・参考資料等

授業の中で紹介していく。

学生に対する評価

復習テスト（60%）、課題への取組み状況（40%）

授業科目名 : 住居計画学	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2 単位	担当教員名 : 萬羽郁子 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 家庭)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 家庭 (小学校) • 住居学 (中学校) • 住居学 (製図を含む。) (高等学校)					
授業の到達目標及びテーマ 住まいの設計製図の手法を実習・演習を通して習得すること、住宅図面から住生活を読み取れる様になることを目標とする。						
授業の概要 実習・演習を通して、小学校家庭科で取り扱われる整理・整頓、中学校家庭科における家族の住まい、高等学校家庭科における住宅図面の読み方、住宅図面の複写、インテリア計画などの指導に必要な基礎的知識を身に付ける。						
授業計画 第1回 : ガイダンス, おこし絵図の作成, 建築図面の種類 第2回 : 住宅広告の読み取り (用途地域, 平面表示記号), 住生活基本法 第3回 : 平面図 (木造平家建図面) ① : 下書き線 (基準線・柱の中心線・柱幅・壁厚さ) 第4回 : 平面図 (木造平家建図面) ② : 壁・柱・建具の仕上げ 第5回 : 平面図 (木造平家建図面) ③ : 家具・設備・寸法・数値・文字の記入 第6回 : 人体・動作寸法と家具配置 第7回 : 家事動線と収納計画 第8回 : 色彩とインテリア計画 第9回 : 建築材料と特徴 第10回 : 家族との生活を考えた住まいづくり : エスキス 第11回 : 家族との生活を考えた住まいづくり : 模型製作① (壁パーツの組立) 第12回 : 家族との生活を考えた住まいづくり : 模型製作② (内装の着彩・仕上げ・家具の配置) 第13回 : インテリアデザインの表現 : プレゼンテーションボードの作成 第14回 : 模型・プレゼンテーションボードの発表会, 復習テスト, まとめ 定期試験は実施しない。						
テキスト 定行まり子・沖田富美子 編著『生活と住居』光生館						
参考書・参考資料等						

授業の中で紹介していく。

学生に対する評価

提出課題 (80%) 、授業への取り組み状況 (20%)

授業科目名 : 児童学概論	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2単位	担当教員名 : 倉持清美
			担当形態 : 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校及び高等学校 家庭科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭 (小学校) ・保育学 (実習を含む。) (中学校) ・保育学 (実習及び家庭看護を含む。) (高等学校)		
授業のテーマ及び到達目標	乳幼児期の子どもの発達、生活についての知識と理解を深めること。		
授業の概要	乳幼児期の子どもの発達と生活について、講義を行う。また、小学校家庭科から幼児などとふれ合う機会を持ち、かかわり方について考える学習に対応できるようにする。		
授業計画	<p>第1回 : 乳幼児の認知的発達1 言葉</p> <p>第2回 : 乳幼児の認知的発達2 心の発達など</p> <p>第3回 : 乳幼児の身体的発達1 身体</p> <p>第4回 : 乳幼児の身体的発達2 運動</p> <p>第5回 : 乳幼児の社会性の発達1 コミュニケーション</p> <p>第6回 : 乳幼児の社会性の発達2 情緒</p> <p>第7回 : 保育現場から見える親たち1 育児不安</p> <p>第8回 : 保育現場から見える親たち2 児童虐待</p> <p>第9回 : 保育現場での子どもたち</p> <p>第10回 : 遊びと発達1 低年齢児</p> <p>第11回 : 遊びと発達2 年長児</p> <p>第12回 : 遊びと発達3 文化財</p> <p>第13回 : 保育の中での子どもの生活</p> <p>第14回 : 授業のまとめ</p>		
定期試験			
テキスト	授業時間中に適宜指示する		
参考書・参考資料等	授業時間中に適宜指示する		

学生に対する評価

レポート40% 発表30% 授業態度30%を総合的に評価する。

授業科目名 : 乳幼児と生 活 I	教員の免許状取得のための 選択科目 (小) 必修科目 (中・高)	単位数 : 2単位	担当教員名 : 倉持清美 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校及び高等学校 家庭科)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭 (小学校) ・保育学 (実習を含む。) (中学校) ・保育学 (実習及び家庭看護を含む。) (高等学校)					
授業のテーマ及び到達目標						
乳幼児期の子どもの発達、生活と家庭看護についての知識と理解を深めること。また、小学校 家庭科から始まる乳幼児との触れ合いについて、対応できるようする。						
授業の概要						
乳幼児期の子どもの発達と生活について、講義を行う。保育施設の実習を行い、乳幼児と接す ることで、より理解を深める。保育施設実践者を教育実地指導講師として招き、現在の親子が 抱えている問題についても学ぶ。家庭看護の重要性を視聴覚教材を通して学ぶ						
授業計画						
第1回 : 家庭科における保育体験学習 1 ふれあい体験の目的						
第2回 : 家庭科における保育体験学習 2 ふれあい体験の課題						
第3回 : 保育実習の事前学習 1 ふれあい体験の実践例 訪問型						
第4回 : 保育実習の事前学習 2 ふれあい体験の実践例 来校型						
第5回 : 保育実習 低年齢児の生活習慣						
第6回 : 保育実習 低年齢児の遊び						
第7回 : 保育実習 低年齢児の保育						
第8回 : 保育実習 年長児の生活習慣						
第9回 : 保育実習 年長児の遊び						
第10回 : 保育実習 年長児の保育						
第11回 : 実習のまとめ 1 事後の授業の作り方						
第12回 : 家庭看護1 家庭看護の重要性を視聴覚教材から学ぶ						
第13回 : 家庭看護2 家庭看護の授業の作り方						
第14回 : 授業のまとめ						
テキスト						
授業時間中に適宜指示する						
参考書・参考資料等						

授業時間中に適宜指示する

学生に対する評価

レポート40% 発表30% 授業態度30% を総合的に評価する。

授業科目名： 体育科研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高橋宏文、仲宗根森敦			
担当形態： クラス分け・複数						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校体育の典型教材としての実技を通して、教材づくりができる力を育成する。具体的には授業後に以下の力を身につけていることが到達目標である。</p> <p>①小学校の体育で必要な学習内容にかかる知識を身につけている。</p> <p>②指導をする上での基本的な教授学的知識を身につけている。</p> <p>特に、小学校体育における領域について、いずれか選択し、領域にかかる学びを深める。初等体育科教育法で学んだことをもとに、教材研究、教材開発、認知学習、授業評価についてより深く学ぶ。実技を通して小学校の体育で必要な学習内容にかかる知識を身につけ、指導をする上での基本的な教授学的知識を身につけることを目指す。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>小学校体育の実技を通して、教材づくりと指導上のポイントに気づき、教材研究をすることで理解を深め、実践することで、実感し、授業づくりの手続きを学ぶようとする。実感を通して授業づくりの手続きを学ぶようとする。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション「この授業で何を学ぶのか」</p> <p>第2回：体つくり運動 体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動遊びゲーム・ボール運動の教材と実技の実際</p> <p>第3回：体つくり運動 多様な動きをつくる運動、体の動きを高める運動 「教材研究」ゲーム・ボール運動の教材と実技の実際</p> <p>第4回：体つくり運動 「学習指導案作成」器械・器具を使っての運動遊び、器械運動の教材と実技の実際</p> <p>第5回：体つくり運動 「模擬授業」体つくりの運動遊び、体つくり運動の教材と実技の実際</p> <p>第6回：ボール運動ゲーム ゴール型（戦術学習とは何か）表現リズム遊び、表現運動の教材と実技の実際</p> <p>第7回：ボール運動ゲーム ネット型（教材化の意味）走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動の教材と実技の実際</p> <p>第8回：ボール運動ゲーム ベースボール型（運動の特性論）</p> <p>第9回：器械運動 マット運動（場の工夫と意味）「情報機器の活用」</p>						

第10回：器械運動 跳び箱運動（グループ学習の方法）

第11回：陸上運動 リレー・短距離走（運動技術の意味）

第12回：陸上運動 リズム走・ハードル走（教具の機能）

第13回：陸上運動 走り幅跳び・走高跳（教材研究の実際）

第14回：表現運動（教師行動）講義のまとめとレポート執筆に向けて

テキスト 特になし

参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 体育編

学生に対する評価

授業へ取り組み及び、グループ毎の活動発表、内容理解を総合して評価する。学習後に小レポートを課すことがある。

参加態度、意欲、グループ学習への積極性を重視する。40%

数回の小レポート及び学期末にレポートを課す。 60%

授業科目名： 器械運動A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 仲宗根森敦 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 体育実技（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 技能については、中学校学習指導要領保健体育編に例示されている程度の技の習得、及びそれらの技を基にして構成した演技の実施ができるることを目標とする。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要となる補助方法を身につけることを目指す。また、小学校などにおける初心者指導において、学習者の運動経験や身体的特性を理解した上で論理的に運動課題を提示できる視点を育む						
授業の概要 この授業では、体操・器械運動の技の習得をすることによって、技の構造やつまづき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目的とする。特に、体操・器械運動の技の指導というものを、自らの身体で体験することによって指導する際の留意点やポイントを理解できるようになることを目指すものである。						
授業計画 第1回：マット運動 逆位について（倒立とそのバリエーション） 第2回：マット運動 前転とその発展技の練習方法について 第3回：マット運動 後転とその発展技の練習方法について 第4回：マット運動 側方倒立回転の練習方法について 第5回：マット運動 倒立前転の練習方法について 第6回：マット運動 倒立回転とびとその発展技の練習方法について 第7回：マット運動 技の組み合わせと巧技系の練習方法について 第8回：マット運動 技能チェック及び講評 第9回：とび箱運動 切り返し系の技の練習方法について 第10回：とび箱運動 回転系の技の練習方法について 第11回：とび箱運動 技能チェック及び講評 第12回：鉄棒運動 逆上がりと下り技の練習方法について 第13回：鉄棒運動 前方支持回転と後方支持回転の練習方法について 第14回：鉄棒運動 技能チェック及び講評						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等						

教師のための器械運動指導法シリーズ（金子朋友、大修館書店）マット運動、とび箱・平均台、鉄棒運動
器械運動の動感指導と運動学（三木四郎、明和出版）

学生に対する評価

種目ごとのレポート	30%	授業内容、これまでの運動経験を踏まえ独自の視点で書かれている：10点 授業内容を踏まえ独自の視点で書かれている：8点 授業内容が書かれている：6点
マット運動テスト	50%	指導要領に記載されている技ができ、教員を集めた講習会で師範ができる：50点 指導要領に記載されている技ができる：40点 指導要領に記載されている基本的な技ができる：30点
とび箱運動テスト	10%	指導要領に記載されている技ができ、教員を集めた講習会で師範ができる：10点 指導要領に記載されている技ができる：8点 指導要領に記載されている基本的な技ができる：6点
鉄棒運動テスト	10%	指導要領に記載されている技ができ、教員を集めた講習会で師範ができる：10点 指導要領に記載されている技ができる：8点 指導要領に記載されている基本的な技ができる：6点

—

授業科目名： 器械運動B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 仲宗根森敦 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 技能については、中学校学習指導要領保健体育編に例示されている程度の技の習得、及びそれらの技を基にして構成した演技の実施ができるることを目標とする。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要となる補助方法を身につけることを目指す。また、小学校などにおける初心者指導において、学習者の運動経験や身体的特性を理解した上で論理的に運動課題を提示できる視点を育む						
授業の概要 この授業では、体操・器械運動の技の習得をすることによって、技の構造やつまづき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目的とする。特に、体操・器械運動の技の指導というものを、自らの身体で体験することによって指導する際の留意点やポイントを理解できるようになることを目指すものである。						
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：マット運動 逆位について（倒立とそのバリエーション） 第2回：マット運動 前転とその発展技の練習方法について 第3回：マット運動 後転とその発展技の練習方法について 第4回：マット運動 側方倒立回転の練習方法について 第5回：マット運動 倒立前転の練習方法について 第6回：マット運動 倒立回転とびとその発展技の練習方法について 第7回：マット運動 技の組み合わせと巧技系の練習方法について 第8回：マット運動 技能チェック及び講評 第9回：とび箱運動 切り返し系の技の練習方法について 第10回：とび箱運動 回転系の技の練習方法について 第11回：とび箱運動 技能チェック及び講評 第12回：鉄棒運動 逆上がりと下り技の練習方法について 第13回：鉄棒運動 前方支持回転と後方支持回転の練習方法について 第14回：鉄棒運動 技能チェック及び講評 						
テキスト 特になし						

参考書・参考資料等

教師のための器械運動指導法シリーズ（金子朋友、大修館書店）マット運動、とび箱・平均台、鉄棒運動
器械運動の動感指導と運動学（三木四郎、明和出版）

学生に対する評価

種目ごとのレポート	30%	授業内容、これまでの運動経験を踏まえ独自の視点で書かれている：10点 授業内容を踏まえ独自の視点で書かれている：8点 授業内容が書かれている：6点
マット運動テスト	50%	指導要領に記載されている技ができる、教員を集めた講習会で師範ができる：50点 指導要領に記載されている技ができる：40点 指導要領に記載されている基本的な技ができる：30点
とび箱運動テスト	10%	指導要領に記載されている技ができる、教員を集めた講習会で師範ができる：10点 指導要領に記載されている技ができる：8点 指導要領に記載されている基本的な技ができる：6点
鉄棒運動テスト	10%	指導要領に記載されている技ができる、教員を集めた講習会で師範ができる：10点 指導要領に記載されている技ができる：8点 指導要領に記載されている基本的な技ができる：6点

—

授業科目名：陸上A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 繁田進			
			担当形態： 単独			
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業の到達目標及びテーマ						
陸上競技全般について、小学校期の陸上運動を中心に、その魅力や特性に触れながら実技能力を高めるとともに、その実践的な指導方法を見につける。						
授業の概要						
小学校期の陸上運動から、短距離種目、ハードル種目、リレー種目、跳躍種目（走幅跳び、走高跳び）投擲種目（ボール投げ）についての技能習得および指導法						
授業計画						
第1回：短距離の運動遊び						
第2回：短距離						
第3回：ハードルの運動遊び						
第4回：ハードル						
第5回：リレーの運動遊び						
第6回：リレー						
第7回：走り幅跳びの運動遊び						
第8回：走り幅跳び						
第9回：走り高跳びの運動遊び						
第10回：走り高跳び						
第11回：ボール投げの運動遊び						
第12回：ボール投げ						
第13回：記録会（トラック種目）						
第14回：記録会（フィールド種目）						
定期試験は実施しない						
テキスト						
陸上競技教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技（日本陸上競技連盟編 繁田進他著 大修館書店）						

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

技能（80%）、レポート（20%）

授業科目名：陸上B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 繁田進
			担当形態： 単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）		
授業の到達目標及びテーマ	陸上競技全般について、小学校期の陸上運動内容を含みながら、その魅力や特性に触れながら実技能力を高めるとともにその実践的な指導方法を身につける		
授業の概要	小学校期の陸上運動の復習に加え、短距離種目、ハードル種目、リレー種目、跳躍種目（走幅跳び、走高跳び、三段跳び）投擲種目（砲丸投げ、槍投げ、）の技能習得および指導法		
授業計画	第1回：短距離の技術 第2回：短距離の指導法 第3回：ハードルの技術 第4回：ハードルの指導法 第5回：リレーの技術 第6回：リレーの指導法 第7回：走り幅跳びの技術 第8回：走り幅跳びの指導法 第9回：走り高跳びの技術 第10回：走り高跳びの指導法 第11回：三段跳びの技術 第12回：砲丸投げの技術 第13回：槍投げの技術 第14回：記録会		
定期試験は実施しない			
テキスト	これで完璧！陸上競技（繁田進著 ベースボールマガジン社）		

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

技能（80%）、レポート（20%）

授業科目名：水泳A	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：森山進一郎、 目黒拓也 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業の到達目標及びテーマ： 児童・生徒等の見本となる泳技能を獲得するとともに、児童・生徒等に対する基礎的な水泳指導法について、理論的根拠および帮助の仕方をあわせて理解すること						
授業の概要： 学校において扱われる「水泳運動および水泳」の内容を全般的（水泳の力学、生理学、心理学、栄養学、医学やコンディショニングを含む）に学習すると共に、基礎的な水泳指導法や水泳授業の運営について多角的に学習する。具体的には、以下の 6 つの内容を中心に取り組む。①水泳・水中運動の特性、②各種泳法の技術的特性、③競泳競技規則と審判法、④プール管理、⑤水泳指導法、⑥安全水泳の心得						
授業計画 第1回：水泳・水中運動の意義および特性の理解 第2回：学習体育および競技からみた水泳の理解 第3回：プールにおける安全と管理の理解 第4回：各種泳法の技術と対象の泳力別指導法の理解 第5回：クロールの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得 第6回：クロールの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践 第7回：背泳ぎの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得 第8回：背泳ぎの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践 第9回：平泳ぎの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得 第10回：平泳ぎの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践 第11回：バタフライの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得 第12回：バタフライの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践 第13回：個人メドレーの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得 第14回：近代4泳法の確認と評価						
テキスト 特に指定しない						
参考書・参考資料等 「水泳指導教本（三訂版）」、「水泳コーチ教本（第3版）」、公益財団法人日本水泳連盟編（大修館書店）、「基礎からマスター水泳」柴田義晴著（ナツメ出版）、「中学校学習指導要領解説・保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説・保健体育編 体育編」文部科学省、そ						

の他、授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

実技課題等 (80%) 、平常点 (20%)

- ・実技課題等は、授業内で指示する各種泳法のフォームの完成度を評価する。
- ・平常点は、授業に取組む態度等を総合的に判断して評価する。

授業科目名：水泳B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：森山進一郎、 目黒拓也			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業の到達目標及びテーマ：児童・生徒等の見本となる泳技能を獲得するとともに、児童・生徒等に対する基礎的な水泳指導法について、理論的根拠および帮助の仕方をあわせて理解すること						
授業の概要：学校において扱われる「水泳運動および水泳」の内容を全般的（水泳の力学、生理学、心理学、栄養学、医学やコンディショニングを含む）に学習すると共に、基礎的な水泳指導法や水泳授業の運営について多角的に学習する。具体的には、以下の 6 つの内容を中心に取り組む。①水泳・水中運動の特性、②各種泳法の技術的特性、③競泳競技規則と審判法、④プール管理、⑤水泳指導法、⑥安全水泳の心得						
授業計画						
第1回：水泳・水中運動の意義および特性の理解						
第2回：学習体育および競技からみた水泳の理解						
第3回：プールにおける安全と管理の理解						
第4回：各種泳法の技術と対象の泳力別指導法の理解						
第5回：クロールの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得						
第6回：クロールの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践						
第7回：背泳ぎの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得						
第8回：背泳ぎの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践						
第9回：平泳ぎの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得						
第10回：平泳ぎの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践						
第11回：バタフライの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得						
第12回：バタフライの泳技能の向上とコーチング・トレーニング法の理論と実践						
第13回：個人メドレーの理論および指導法の理解と泳技能やスタート・ターン技能の獲得						
第14回：近代4泳法の確認と評価						
テキスト 特に指定しない						
参考書・参考資料等						
「水泳指導教本（三訂版）」、「水泳コーチ教本（第3版）」、公益財団法人日本水泳連盟編 (大修館書店)、「基礎からマスター水泳」柴田義晴著(ナツメ出版)、「中学校学習指導要領解説・保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説・保健体育編 体育編」文部科学省、そ						

の他、授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

実技課題等 (80%) 、平常点 (20%)

- ・実技課題等は、授業内で指示する各種泳法のフォームの完成度を評価する。
- ・平常点は、授業に取組む態度等を総合的に判断して評価する。

授業科目名： バスケットボールA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：岩見雅人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標：バスケットボールの基礎的な技術（ドリブル・パス・シュート）を習得するとともに、「ボールゲーム」「ボール運動」「ゴール型競技」で求められるボールの操作方法やその指導法について学ぶ。グループ練習や試合を通して、プレーおよびコミュニケーションの両方における「積極性」と「協調性」の重要性を理解する。						
授業の概要：本授業では、バスケットボールで必要となる基礎的技術や身体能力を理解し、「巧み」にボールと身体を操作する方法について実践を通じて学習する。また、個人技能と併せてチーム戦術についても理解を深め、オンボール（ボールを持っているとき）とオフボール（ボールを持たないとき）の動きについて学習する。また、グループ練習や試合を通じた「する」「みる」「ささえる」の観点から、スポーツの多角的な楽しみ方を発見していく。						
授業計画 第1回：オリエンテーション、バスケットボールの基礎知識 第2回：学習指導要領におけるバスケットボールの位置づけと内容 第3回：安全に運動をするための準備、バスケットボールで使用する用器具について 第4回：バスケットボールに求められる体力・基礎的技術について、スキルテスト（Pre）の実施 第5回：個人技術の練習法、ドリブル技術の練習と応用、簡易ゲームの実施 第6回：個人技術の練習法、パス技術の練習と応用、簡易ゲームの実施 第7回：個人技術の練習法、シュート技術の練習と応用、簡易ゲームの実施 第8回：チーム戦術の練習法：チームで攻める（パス&ラン、スペーシングなど） 第9回：チーム戦術の練習法：チームで守る（マンツーマン、ヘルプディフェンスなど） 第10回：試合の運営方法や審判法、ミニバスケットボールや3人制バスケットボール（3×3）の特徴 第11回：試合の実践①（運営法、審判法の実践） 第12回：試合の実践②（分析、評価、改善） 第13回：試合の実践③（チームワーク、フェアプレー） 第14回：スキルテスト（Post）の実施、授業のまとめ						
テキスト 特に指定しない						
参考書・参考資料等 「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻・下巻」（大修館書店）, 「ファンドリル」（ベー						

スボール・マガジン社) , その他, 授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点 (40%) , 実技点 (30%) , 課題点 (30%) ,

- ・平常点は, 授業に取り組む態度・意欲等を総合的に判断して評価する。
- ・実技点は, 実技における積極性や協調性を総合的に判断して評価する。
- ・課題点は, スキルテストの自己分析レポートなどから評価する。

授業科目名： バスケットボールB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：岩見雅人 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標：バスケットボールの基礎的な技術（ドリブル・パス・シュート）を習得するとともに、「ボールゲーム」「ボール運動」「ゴール型競技」に特徴的なルールや戦術について学ぶ。グループ練習や試合を通して、プレーおよびコミュニケーションの両方における「積極性」と「協調性」の重要性を理解する。						
授業の概要：本授業では、バスケットボールで必要となる基礎的技術や身体能力を理解し、「巧み」にボールと身体を操作する方法について実践を通じて学習する。また、個人技能と併せてチーム戦術についても理解を深め、オンボール（ボールを持っているとき）とオフボール（ボールを持たないとき）の動きについて学習する。グループ練習や試合を通して、スポーツを「する、みる、支える、知る」の観点から、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する方法について学ぶ。						
授業計画 第1回：オリエンテーション、バスケットボールの基礎知識 第2回：学習指導要領におけるバスケットボールの位置づけと内容 第3回：安全に運動をするための準備、バスケットボールで使用する用器具について 第4回：バスケットボールに求められる体力・基礎的技術について、スキルテスト（Pre）の実施 第5回：個人技術の練習法、ドリブル技術の練習と応用、ミニゲームの実施 第6回：個人技術の練習法、パス技術の練習と応用、ミニゲームの実施 第7回：個人技術の練習法、シュート技術の練習と応用、ミニゲームの実施 第8回：チーム戦術の練習法：チームで攻める（パス&ラン、スペーシングなど） 第9回：チーム戦術の練習法：チームで守る（マンツーマン、ヘルプディフェンスなど） 第10回：試合の運営方法や審判法、ミニバスケットボールや3人制バスケットボール（3×3）の特徴 第11回：試合の実践①（運営法、審判法の実践） 第12回：試合の実践②（分析、評価、改善） 第13回：試合の実践③（チームワーク、フェアプレー） 第14回：スキルテスト（Post）の実施、生涯スポーツとしてのバスケットボール、授業のまとめ						
テキスト 特に指定しない						
参考書・参考資料等 「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻・下巻」（大修館書店）, 「ファンドリル」（ベー						

スボール・マガジン社) , その他, 授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点 (40%) , 実技点 (30%) , 課題点 (30%) ,

- ・平常点は, 授業に取り組む態度・意欲等を総合的に判断して評価する。
- ・実技点は, 実技における積極性や協調性を総合的に判断して評価する。
- ・課題点は, スキルテストの自己分析レポートなどから評価する。

授業科目名： ソフトボールA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：及川 研 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
学校体育および課外活動におけるベースボール型種目の指導ができるることを目標に、基本的な知識・技能を習得する。技能・チーム戦術の両面とも、学習指導要領（小学校体育・中学校保健体育）にあげられた事項について理解できるようにしている他、初心者を想定して技能面・戦術面での指導方法を扱う。						
授業の概要						
主にソフトボール・ティーボールを題材に、ベースボール型に特徴的な動作・技能・安全面の知識、を取得するとともに、未熟者の指導・練習の方法の工夫についても取り上げる。 また、ルール理解と戦術面の指導を考慮したゲーム実践を取り入れる。						
授業計画						
第1回：ベースボール型に特徴的なひねりや曲げを伴う体の使い方を踏まえた準備運動、安全上の注意、道具の取り扱い。投げ動作習得に先立つエクササイズ。						
第2回：ボールを投げること。投げ動作の周囲に効果的な練習方法について。						
第3回：送球を捕球すること。捕球動作の習得に効果的な練習方法について。						
第4回：グローブを使うこと。ゴロの捕球。フライの捕球。初步的なゲームについて。						
第5回：バットを振る技能。ボールを打つこと。安全面での配慮事項。起きやすいケガについて。						
第6回：ティーボールを用いたゲーム。打つことをメインにしたゲーム。						
第7回：守備での「ボールを持たない人動き」。打球に対するスタートと連係プレイとその狙い。						
第8回：投手の投球（スローピッチ）。投手・打者のかけひきとルールについて。						
第9回：投げられたボールを打つこと。やや進んだゲームの実際。						
第10回：走塁とそのルール。守備側のフォースアウト・タッチアウトの取り方やダブルプレー。						
第11回：ゲームにおける、攻撃側の作戦、守備側の作戦について。						
第12回：ゲームのルールや場のアレンジによる、習得課題明確化や楽しさの増加について						
第13回：ゲームのルールや場のアレンジによる、戦術学習の導入や楽しさの増加について						
第14回：技能面でのつまづきや苦手点、ゲームでの課題を克服する練習方法の工夫について。						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 ワンダフル・スポーツ（新学社）						

学生に対する評価

学習内容に関する記録レポート60%、実技技能の到達度20%、ゲーム運営への積極的貢献20%
を評価する

授業科目名： ソフトボールB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：及川 研 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標						
学校体育および課外活動におけるベースボール型種目の指導ができるることを目標に、基本的な知識・技能を習得する。技能・チーム戦術の両面とも、学習指導要領（小学校体育・中学校保健体育）にあげられた事項について理解できるようにしている他、初心者を想定して技能面・戦術面での指導方法を扱う。						
授業の概要						
主にソフトボール・ティーボールを題材に、ベースボール型に特徴的な動作・技能・安全面の知識、を取得するとともに、未熟者の指導・練習の方法の工夫についても取り上げる。 また、ルール理解と戦術面の指導を考慮したゲーム実践を取り入れる。						
授業計画						
第1回：ベースボール型に特徴的なひねりや曲げを伴う体の使い方を踏まえた準備運動、安全上の注意、道具の取り扱い。投げ動作習得に先立つエクササイズ。						
第2回：ボールを投げること。投げ動作の周囲に効果的な練習方法について。						
第3回：送球を捕球すること。捕球動作の習得に効果的な練習方法について。						
第4回：グローブを使うこと。ゴロの捕球。フライの捕球。初步的なゲームについて。						
第5回：バットを振る技能。ボールを打つこと。安全面での配慮事項。起きやすいケガについて。						
第6回：ティーボールを用いたゲーム。打つことをメインにしたゲーム。						
第7回：守備での「ボールを持たない人動き」。打球に対するスタートと連係プレイとその狙い。						
第8回：投手の投球（スローピッチ・ファストピッチ）。投手・打者のかけひきとルールについて。						
第9回：投げられたボールを打つこと。やや進んだゲームの実際。						
第10回：走塁とそのルール。守備側のフォースアウト・タッチアウトの取り方やダブルプレー。						
第11回：ゲームにおける、攻撃側の作戦、守備側の作戦について。						
第12回：ゲームのルールや場のアレンジによる、習得課題明確化や楽しさの増加について						
第13回：ゲームのルールや場のアレンジによる、戦術学習の導入や楽しさの増加について						
第14回：技能面でのつまづきや苦手点、ゲームでの課題を克服する練習方法の工夫について。						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 ワンダフル・スポーツ（新学社）						

学生に対する評価

学習内容に関する記録レポート60%、実技技能の到達度20%、ゲーム運営への積極的貢献20%
を評価する

授業科目名： バレー・ボールA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋宏文 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 小学校の学習指導要領で取り上げられているネット型の種目であるソフトバレー・ボールについて、その成り立ちから、ゲームの構造や実践方法さらには指導方法について学習する。 そして、様々なルールや場の設定を用いてゲームを行い、ゲームの発展させる方法とその発達段階別の課題を発見していく。 さらには、ソフトバレー・ボールから通常のバレー・ボールへとゲームを発展させていく方法について実戦を通して学習し、最終的にはバレー・ボールゲームの指導についても学習していく。						
授業の概要 (1) ソフトバレー・ボールの理解 (2) ソフトバレー・ボールのゲームの実践と課題の発見とその対処法 (3) ゲームの工夫の視点（様々なルールの特徴を把握する） (4) ソフトバレー・ボールからバレー・ボールへの移行とその課題の抽出 (5) 移行時の課題への対処法						
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ネット型の種目の特徴を捕える 第3回：導入ゲーム 第4回：キャッチバレーの導入 第5回：キャッチバレーの発展 第6回：様々なルールによるゲームの実践から指導のポイントや課題を発見する 第7回：様々な場の設定によるゲームの実践から指導のポイントや課題を発見する 第8回：戦術を取り入れたゲームの実践とその戦術を達成するための技術や動きを考える 第9回：キッズバレー・ボールを用いたゲーム① ボールの変更とプレーの様相の変化による課題を考える 第10回：キッズバレー・ボールを用いたゲーム② ボールの変更とルールの設定のバランスを考えてゲーム作りを考える 第11回：キッズバレー・ボールを用いたゲーム③ 戦術を生かしたゲームを考える 第12回：通常のバレー・ボールを用いたゲーム① ボールの変更とプレーの様相の変化 第13回：通常のバレー・ボールを用いたゲーム② ボールの変更とルールの設定						

第14回：通常のバレーボールを用いたゲーム③

組織化されより良い連係を図ったプレーを実践したゲームを作る

テキスト 特に指定しない

参考書・参考資料等

バレーボール（ライバルに差をつける自主練習シリーズ）

バレーボールの戦い方 [攻守に有効なプレーの選択肢を広げる] (マルチアングル戦術図解)

学生に対する評価

実技試験：レシーブ、トス、ヒッティング、スパイクの各技術的ポイントの評価 (80%)

平常点：振り返りシートの作成 (20%)

授業科目名： バレー ボールB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋宏文 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 体育実技（中学校、高等学校）		

授業のテーマ及び到達目標

はじめに、基礎技術について実践を通して学習する。この時、特に基礎技術における動き方やボールのコントロールの感覚について学習を通して見つけていく。

続いて、バレー ボールゲームの構造、さらにチームスポーツという視点から特徴を理解し連係プレー やゲームにおける技術の実践方法について学習する。この際に、小学校領域にも出てくるソフトバレー ボールにおけるゲームの発展を参考にしてゲーム作りを学習する。さらに、特にゲームにおいてはコミュニケーション能力を反映させたプレーを実践できるようにしていく。

授業の概要

- (1) バレー ボールの基礎技術の習得
- (2) 技術を使用する上でのコツの発見
- (3) コツを使用したプレーの実践
- (4) 連係プレーの習得
- (5) バレー ボールのゲーム特性についての理解
- (6) ゲームの発達段階の理解とプレーの実践方法
- (7) フォーメーションの理解と実践
- (8) チームワークの構築
- (9) ルールについての学習
- (10) 審判法についての学習

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：ボールヒッティング

第3回：スパイク技術①動き作り

第4回：スパイク技術②タイミングの合わせ

第5回：オーバーハンドパス

第6回：トス技術

第7回：トスを用いた連係プレー

第8回：アンダーハンドパス

第9回：レシーブ技術とボールコントロール

第10回：連係プレーとゲーム

第11回：ゲームの実践①

ゲームの特徴やルールの理解と実践

第12回：ゲームの実践②

セットプレー局面における基本的なフォーメーションの理解と実践

第13回：ゲームの実践③

ゲームでの連係プレーの理解と実践

第14回：ゲームの実践④

審判法

テキスト 特に指定しない

参考書・参考資料等

バレーボール（ライバルに差をつける自主練習シリーズ）

バレーボールの戦い方 [攻守に有効なプレーの選択肢を広げる] (マルチアングル戦術図解)

学生に対する評価

実技試験：レシーブ、トス、ヒッティング、スパイクの各技術的ポイントの評価 (80%)

平常点：振り返りシートの作成 (20%)

授業科目名：表現運動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松岡綾葉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、学校教育における表現運動に関する技能および指導法を学ぶ。児童・生徒の表現を理解するためのしなやかな感性と表現力を獲得し、児童・生徒に身体で表現する楽しさを教授できる指導力を養うことをねらいとする。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>はじめに学生自身の表現と向き合い、他者とからだでつながるための様々なグループワークを行う。次に身体の発達過程および学習指導要領の表現運動についての理解や単元計画の立案・指導法について実践的に学ぶ。授業終盤ではグループによる作品発表を実践し、身体表現の専門的技術の技量に左右されないからだの表現力を磨く。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・表現運動領域について</p> <p>第2回：こころとからだのワーク①—からだの可能性と不自由さへの気づき—</p> <p>第3回：こころとからだのワーク②—他者の表現との協同—</p> <p>第4回：子どもの発達の理解と体つくり運動</p> <p>第5回：表現運動①—見立て遊び—</p> <p>第6回：表現運動②—用具を用いた表現運動—</p> <p>第7回：表現運動③—題材を用いた即興的な表現の実践と指導法—</p> <p>第8回：フォークダンスの実践と指導法</p> <p>第9回：リズムダンス①—リズム遊びと基本のステップ—</p> <p>第10回：リズムダンス②—リズムダンス創作法—</p> <p>第11回：ダンス作品創作に向けて①—イメージから多様な動きを創る—</p> <p>第12回：ダンス作品創作に向けて②—動きの構成、音楽・空間との関わり—</p> <p>第13回：ダンス作品発表</p> <p>第14回：ダンス作品発表の振り返りとまとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>「表現運動・表現の最新指導法」（村田芳子／小学館）</p>						

参考書・参考資料等

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」（文部科学省／東洋館出版社）

学生に対する評価

- ・授業参加姿勢60%
- ・課題発表およびレポート評価40%

授業科目名：ダンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松岡綾葉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び 高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・体育実技（中学校、高等学校）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、学校体育におけるダンス領域の指導に関する体系的な知識・技能を学ぶとともに、心身を開放して動きの可能性を各自で探究し、からだの表現力を身につける。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領に示された内容を中心に、創作ダンスでは多様なテーマやイメージから想起された様々な動きを実践し、現代的なリズムのダンスではリズムをとらえて踊ることを学び、フォークダンスでは伝承文化と動きの特性を学ぶ。またグループワークを通して自己や他者の運動観察を行い、他者の表現の受容や評価方法について理解する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・ダンスとは何か</p> <p>第2回：こころとからだのワーク①—からだの不自由さに気づく—</p> <p>第3回：こころとからだのワーク②—他者の表現から学ぶ—</p> <p>第4回：学校教育におけるダンスの意義と学習指導要領のダンス学習について</p> <p>第5回：フォークダンスの実践と指導法</p> <p>第6回：現代的なリズムのダンス①—リズムダンスの基本動作—</p> <p>第7回：現代的なリズムのダンス②—エアロビックダンスのステップと有酸素運動について—</p> <p>第8回：現代的なリズムのダンス③—エアロビックダンスのプログラム作り—</p> <p>第9回：創作ダンス①—動きとイメージ—</p> <p>第10回：創作ダンス②—様々な題材から作品への発展—</p> <p>第11回：単元計画と評価について・グループ活動の指導法</p> <p>第12回：グループによるダンス作品創作実践</p> <p>第13回：ダンス作品発表</p> <p>第14回：発表の振り返りとまとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>「明日からトライ！ダンスの授業」（全国ダンス・表現運動授業研究会／大修館書店）</p>						
<p>参考書・参考資料等</p>						

適宜提示する。

学生に対する評価

- ・授業参加姿勢60%
- ・課題発表およびレポート評価40%

授業科目名 : 体つくり運動A	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 1 単位	担当教員名 : 塩多雅矢 担当形態 : 単独					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 体育実技（中学校、高等学校）							
授業のテーマ及び到達目標 体つくり運動の内容とねらいや、体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動・体の動きを高める運動などの項目に含まれる運動の特性を知ることが本講義を通じたねらいである。運動の特性を理解した上で実践に臨むことで、児童や生徒の能力や進捗に合わせた指導を展開することが可能となる。そのため、特性の理解に基づいた実践への適用を考察できるようになることを本講義の目標とする。								
授業の概要 体つくり運動に含まれる体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動・体の動きを高める運動について、運動のメカニズムを伝え、それに基づく運動の指導方法を考察することを基本的な内容とする。その際に、体への気付き・体の調整・仲間との交流といった、体つくり運動に含まれるキーワードを、児童や生徒に対する指導実践への活用を考察する。また、運動を考える1つのツールとして、コーディネーション能力について、その基礎知識も伝達する。								
授業計画 第1回 : 体つくり運動とは? : 学習指導要領から全体像を見る 第2回 : コーディネーション能力を体つくり運動に生かすには? 第3回 : 心と体の気づきとは? : ボディワークを通じて体感する 第4回 : 体ほぐしの運動（遊び）の理論と実践の考察 第5回 : 多様な動きをつくる運動（遊び）の理論と実践の考察①バランスと体の移動 第6回 : 多様な動きをつくる運動（遊び）の理論と実践の考察②用具の操作 第7回 : 多様な動きをつくる運動（遊び）の理論と実践の考察③力試しの運動 第8回 : 多様な動きをつくる運動（遊び）の理論と実践の考察④基本的な運動を組み合わせる運動 第9回 : 多様な動きをつくる運動（遊び）の指導実践の発表 第10回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察①体の柔らかさを高める運動 第11回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察②巧みな動きを高める運動 第12回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察③力強い動きを高める運動 第13回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察④持続する能力を高める運動								

第14回：動きを高める運動の指導実践の発表

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

文部科学省「体つくり運動—授業の考え方と進め方」東洋出版社、2013

C. ハルトマン、H-J. ミノウ、G. ゼンフ「初歩の動作学- トレーニング学」レーマンスメディア、2013

小野田桂子、笹生心太 「体つくり運動が不得手な学生は何ができないのか：コーディネーション能力に着目して」 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要、2017

学生に対する評価

指導実践の発表：50点、授業内の課題：30点、レポート課題：20点

授業科目名 : 体つくり運動B	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 1 単位	担当教員名 : 塩多雅矢 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 体育実技（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 体つくり運動の内容とねらいや、体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動・体の動きを高める運動などの項目に含まれる運動の特性を知ることが本講義を通じたねらいである。運動の特性を理解した上で実践に臨むことで、児童や生徒の能力や進捗に合わせた指導を展開することが可能となる。そのため、特性の理解に基づいた実践への適用を考察できるようになることを本講義の目標とする。						
授業の概要 体つくり運動に含まれる体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動・体の動きを高める運動について、運動のメカニズムを伝え、それに基づく運動の指導方法を考察することを基本的な内容とする。その際に、体への気付き・体の調整・仲間との交流といった、体つくり運動に含まれるキーワードを、児童や生徒に対する指導実践への活用を考察する。また、運動を考える1つのツールとして、コーディネーション能力について、その基礎知識も伝達する。						
授業計画 第1回 : 体つくり運動とは? : 学習指導要領から全体像を見る 第2回 : コーディネーション能力を体つくり運動に生かすには? 第3回 : 心と体の気づきとは? : ボディワークを通じて体感する 第4回 : 体ほぐしの運動の理論と実践の考察 第5回 : 多様な動きをつくる運動の理論と実践の考察①バランスと体の移動 第6回 : 多様な動きをつくる運動の理論と実践の考察②用具の操作 第7回 : 多様な動きをつくる運動の理論と実践の考察③力試しの運動 第8回 : 多様な動きをつくる運動の理論と実践の考察④基本的な運動を組み合わせる運動 第9回 : 多様な動きをつくる運動の指導実践の発表 第10回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察①体の柔らかさを高める運動 第11回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察②巧みな動きを高める運動 第12回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察③力強い動きを高める運動 第13回 : 動きを高める運動の理論と実践の考察④持続する能力を高める運動 第14回 : 動きを高める運動の指導実践の発表						

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

文部科学省「体つくり運動ー授業の考え方と進め方」東洋出版社、2013

C. ハルトマン、H-J. ミノウ、G. ゼンフ「初歩の動作学- トレーニング学」レーマンスメディア、2013

小野田桂子、 笹生心太 「体つくり運動が不得手な学生は何ができないのか：コーディネーション能力に着目して」 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要、2017

学生に対する評価

指導実践の発表：50点、授業内の課題：30点、レポート課題：20点

授業科目名：運動方法学総論A	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：仲宗根森敦 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 運動学の概念について学ぶことにより、運動についての理解を深める。また運動を構造的に分析する視点を持ち、自分自身の実技経験を論理的かつ多面的に分析し、実際の指導現場に活用できる応用力を涵養する。また、小学校などにおける初心者指導において、学習者の運動経験や身体的特性を理解した上で論理的に運動課題を提示できる視点を育む。						
授業の概要 運動指導を行う際には指導者が運動そのものを観察し、分析するための基礎的な知識が必要である。このためには、指導者自身が対象となる運動の実技経験を持つとともに、その経験を指導に役立たせるための理論を持つことが必要である。本講義では運動とはどのようなものか、また技能、体力、技術、戦術等についてその構造や理論を学ぶ。これらより運動特性及び運動構造への理解を深め、指導を行うために必要な運動に対する考え方・理論を身につける。						
授業計画 第1回：オリエンテーション 運動学について 第2回：運動のコツとは 第3回：運動のカンとは 第4回：運動の自己観察について 第5回：運動の他者観察について 第6回：運動の形成位相について(1)なじみの位相－偶発位相 第7回：運動の形成位相について(2)図式化位相－自在化位相 第8回：自然科学的分析とスポーツ運動学的分析について 第9回：創発分析能力について 第10回：促発分析能力について 第11回：運動の構造分析 第12回：運動の学習転移：運動類縁性 第13回：反逆身体について 第14回：本講義のまとめ						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 『運動学講義』金子朋友・朝岡正雄編著、大修館書店 『教師のための運動学 運動指導の実践理論』金子朋友監修、吉田茂、三木四郎編、大修館書店 『マイネルスポーツ運動学』クルト・マイネル著、金子朋友訳、大修館書店						

『身体知の構造』金子明友、明和出版 『身体知の形成上・下』金子明友、明和出版		
学生に対する評価		
毎回の小レポート	70%	5点×14回 授業内容、これまでの運動経験を踏まえ独自の視点で具体的に書かれている：5点 授業内容を踏まえ独自の視点で具体的に書かれている：3点 授業内容が書かれている：2点
まとめレポート	30%	30点×1回 指定の書式に沿って授業の内容を基に、独自の視点が理論的で具体的に書かれている（30点） 指定の書式に沿って授業の内容を基に、独自の視点が具体的に書かれている（25点） 指定の書式に沿って授業の内容を基に書かれている（20点）
-		

授業科目名：運動方法学総論 B	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 仲宗根森敦 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 運動学の概念について学ぶことにより、運動についての理解を深める。また運動を構造的に分析する視点を持ち、自分自身の実技経験を論理的かつ多面的に分析し、実際の指導現場に活用できる応用力を涵養する。また、小学校などにおける初心者指導において、学習者の運動経験や身体的特性を理解した上で論理的に運動課題を提示できる視点を育む。						
授業の概要 運動指導を行う際には指導者が運動そのものを観察し、分析するための基礎的な知識が必要である。このためには、指導者自身が対象となる運動の実技経験を持つとともに、その経験を指導に役立たせるための理論を持つことが必要である。本講義では運動とはどのようなものか、また技能、体力、技術、戦術等についてその構造や理論を学ぶ。これらより運動特性及び運動構造への理解を深め、指導を行うために必要な運動に対する考え方・理論を身につける。						
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：オリエンテーション 運動学について 第2回：運動のコツとは 第3回：運動のカンとは 第4回：運動の自己観察について 第5回：運動の他者観察について 第6回：運動の形成位相について(1)なじみの位相－偶発位相 第7回：運動の形成位相について(2)図式化位相－自在化位相 第8回：自然科学的分析とスポーツ運動学的分析について 第9回：創発分析能力について 第10回：促発分析能力について 第11回：運動の構造分析 第12回：運動の学習転移：運動類縁性 第13回：反逆身体について 第14回：本講義のまとめ 						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 『運動学講義』金子朋友・朝岡正雄編著、大修館書店 『教師のための運動学 運動指導の実践理論』金子朋友監修、吉田茂、三木四郎編、大修館書店 『マイネルスポーツ運動学』クルト・マイネル著、金子朋友訳、大修館書店						

『身体知の構造』金子明友、明和出版 『身体知の形成上・下』金子明友、明和出版		
学生に対する評価		
毎回の小レポート	70%	5点×14回 授業内容、これまでの運動経験を踏まえ独自の視点で具体的に書かれている：5点 授業内容を踏まえ独自の視点で具体的に書かれている：3点 授業内容が書かれている：2点
まとめレポート	30%	30点×1回 指定の書式に沿って授業の内容を基に、独自の視点が理論的で具体的に書かれている（30点） 指定の書式に沿って授業の内容を基に、独自の視点が具体的に書かれている（25点） 指定の書式に沿って授業の内容を基に書かれている（20点）
-		

授業科目名： 体育原理A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田中（二橋）愛			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、「身体教育とは何か」をテーマとする。到達目標は次の通りである。（1）「身体教育とは何か」について多角的に検討し、身体教育の理念およびその必要性を理解すること。（2）人間にとってなぜ「身体教育」が必要であるのか、さらには、小学校、中学校及び高等学校における教科体育の役割について自らの言葉で表現できるようになること。（3）学校体育に関連する諸問題について他者と議論することを通して、対話を通して問題解決に取り組む態度やマナーを身に付けること。						
授業の概要 はじめに、「身体教育とは何か」を議論するための基礎知識として、「体育」および「スポーツ」に関する諸概念を整理する。次に、体育およびスポーツ指導が抱える諸問題の中でも「競争」に焦点を当て、「競争」をめぐるジレンマについて検討する。その際、グループワーク等を用いて理解を深める。さらに、身体教育の理念およびその必要性を理解するために、「身体」についての哲学および教育学的な知見に触れる。						
授業計画 第1回：体育原理とはどのような分野なのか 第2回：身体教育に関する諸概念の整理：「体育」と「学校」と「スポーツ」の関係 第3回：教育の中の「スポーツ」（1）「運動部活動」を通して教育を考える 第4回：教育の中の「スポーツ」（2）教科体育で「競争」をどのように位置づけるか 第5回：教育の中の「スポーツ」（3）「格差問題」における小学校体育の意義 第6回：「スポーツ」と身体観 第7回：中間まとめ：身体教育におけるスポーツの位置づけ 第8回：身体教育の理念の変遷 第9回：身体とは何か（1）：「心と体を一体として捉える」とはどういうことか 第10回：身体とは何か（2）：〈できる〉と〈できない〉の構造 第11回：身体とは何か（3）：他者とかかわること						

第12回：身体とは何か（4）：教える人、育てる人の身体

第13回：身体教育と能力主義の関係はどうあるべきか

第14回：身体教育とは何か、学校体育の役割とは何か

定期試験

テキスト

授業内で適宜指示する

参考書・参考資料等

- ・遠藤卓郎他 『体育の見方、変えてみませんか』 学研 2009年
- ・本田由紀 『教育は何を評価してきたのか』 岩波新書 2020年
- ・市川浩 『身の構造』 講談社学術文庫 1994年
- ・中澤篤史 『そろそろ、部活のこれからを話しませんか 未来のための部活講義』 大月書店 2017年
- ・大橋道雄編 『体育哲学原論』 不昧堂 2011年
- ・佐藤臣彦 『身体教育を哲学する』 北樹出版 1993年
- ・高橋徹編 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 みらい 2018年
- ・瀧澤文雄 『身体の論理』 不昧堂 1995年
- ・竹内敏晴 『教師のためのからだとことば考』 ちくま学芸文庫 1999年
- ・文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）
- ・文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）
- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）

学生に対する評価

授業後のコメントシート記述：50%、期末試験50%

授業科目名： 体育原理B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田中（二橋）愛			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）（中学校及び高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、「身体教育とは何か」をテーマとする。到達目標は次の通りである。（1）「身体教育とは何か」について多角的に検討し、身体教育の理念およびその必要性を理解すること。（2）人間にとってなぜ「身体教育」が必要であるのか、さらには、小学校、中学校及び高等学校における教科体育の役割について自らの言葉で表現できるようになること。（3）学校体育に関連する諸問題について他者と議論することを通して、対話を通して問題解決に取り組む態度やマナーを身に付けること。						
授業の概要 はじめに、「身体教育とは何か」を議論するための基礎知識として、「体育」および「スポーツ」に関する諸概念を整理する。次に、体育およびスポーツ指導が抱える諸問題の中でも「競争」に焦点を当て、「競争」をめぐるジレンマについて検討する。その際、グループワーク等を用いて理解を深める。さらに、身体教育の理念およびその必要性を理解するために、「身体」についての哲学および教育学的な知見に触れる。						
授業計画 第1回：体育原理とはどのような分野なのか 第2回：身体教育に関する諸概念の整理：「体育」と「学校」と「スポーツ」の関係 第3回：教育の中の「スポーツ」（1）「運動部活動」を通して教育を考える 第4回：教育の中の「スポーツ」（2）教科体育で「競争」をどのように位置づけるか 第5回：教育の中の「スポーツ」（3）「格差問題」における小学校体育の意義 第6回：「スポーツ」と身体観 第7回：中間まとめ：身体教育におけるスポーツの位置づけ 第8回：身体教育の理念の変遷 第9回：身体とは何か（1）：「心と体を一体として捉える」とはどういうことか 第10回：身体とは何か（2）：〈できる〉と〈できない〉の構造 第11回：身体とは何か（3）：他者とかかわること						

第12回：身体とは何か（4）：教える人、育てる人の身体

第13回：身体教育と能力主義の関係はどうあるべきか

第14回：身体教育とは何か、学校体育の役割とは何か

定期試験

テキスト

授業内で適宜指示する

参考書・参考資料等

- ・遠藤卓郎他 『体育の見方、変えてみませんか』 学研 2009年
- ・本田由紀 『教育は何を評価してきたのか』 岩波新書 2020年
- ・市川浩 『身の構造』 講談社学術文庫 1994年
- ・中澤篤史 『そろそろ、部活のこれからを話しませんか 未来のための部活講義』 大月書店 2017年
- ・大橋道雄編 『体育哲学原論』 不昧堂 2011年
- ・佐藤臣彦 『身体教育を哲学する』 北樹出版 1993年
- ・高橋徹編 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 みらい 2018年
- ・瀧澤文雄 『身体の論理』 不昧堂 1995年
- ・竹内敏晴 『教師のためのからだとことば考』 ちくま学芸文庫 1999年
- ・文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）
- ・文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）
- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）

学生に対する評価

授業後のコメントシート記述：50%、期末試験50%

授業科目名： 運動生理学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤 耕平 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育、中学校及び高等学校 保健）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 • 体育（小学校） • 生理学（運動生理学を含む。）（中学校、高等学校 保健体育） • 生理学・栄養学（中学校、高等学校 保健）					
授業のテーマ及び到達目標 小学生の保健体育授業における運動時の身体機能調節機序、適応に関する基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、エネルギー代謝、神経・筋機能、呼吸・循環、内分泌、体温調節などの諸調節機能の調節メカニズムの基礎を学び、安全で有効な小学校における保健体育現場への応用展開を目標とする。						
授業の概要 小学生の体育における生理的な身体調節機序に加えて、トレーニングに対する適応、暑熱・寒冷環境、低酸素、不活動などに対する人体の適応および機能的変化を概説し、体育の教科指導における応用展開を図る。						
授業計画 第1回：人体の統合的生理メカニズムに関する基礎知識 第2回：無酸素性エネルギー代謝によるエネルギー產生 第3回：有酸素性エネルギー代謝によるエネルギー產生 第4回：トレーニングに対する代謝適応 第5回：神経系の基礎知識 第6回：運動時の神経調節メカニズムの基礎 第7回：骨格筋の解剖と生理 第8回：呼吸生理の基礎 第9回：循環整理の基礎 第10回：呼吸循環の統合性と運動時の機能変化 第11回：内分泌と生理作用 第12回：運動時における体温調節機序 第13回：環境の変化に対する人体の適応（低酸素・微小重力・寒冷環境） 第14回：講義の総括と期末テスト						
テキスト						

最新運動生理学（宮村実晴編著、真興交易医書出版部）

参考書・参考資料等

適宜授業内で配布する

学生に対する評価

期末テスト 50 %, 授業内レポート 30 %, 授業内での興味関心態度 20 % で評価する

授業科目名： 運動生理学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤 耕平			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育、中学校及び高等学校 保健）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・生理学（運動生理学を含む。）（中学校、高等学校 保健体育） ・生理学・栄養学（中学校、高等学校 保健）					
授業のテーマ及び到達目標 <p>ヒトにおける運動時の生理機能の調節機序、適応に関する基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、エネルギー代謝、神経・筋機能、呼吸・循環、内分泌、体温調節などの諸調節機能の調節明かニズムの基礎を学び、保健体育科教育への応用展開を目標にする。また、小学校の保健体育の教科指導を、安全で効率的に行うための運動生理学的な知識を教授し、実践に生かすことを目標とする。</p>						
授業の概要 <p>運動時の生理的な調節機序に加えて、トレーニングに対する適応、暑熱・寒冷環境、低酸素、不活動などに対する人体の適応および機能的変化を概説する。また、小学生の体育の授業における身体諸機能の調節メカニズムを概説し、安全で効率的な保健体育科教育の基礎知識を教授する。</p>						
授業計画 <p>第1回：人体の統合的生理メカニズムに関する基礎知識</p> <p>第2回：無酸素性エネルギー代謝によるエネルギー產生</p> <p>第3回：有酸素性エネルギー代謝によるエネルギー產生</p> <p>第4回：トレーニングに対する代謝適応</p> <p>第5回：神経系の基礎知識</p> <p>第6回：運動時の神経調節メカニズムの基礎</p> <p>第7回：骨格筋の解剖と生理</p> <p>第8回：呼吸生理の基礎</p> <p>第9回：循環整理の基礎</p> <p>第10回：呼吸循環の統合性と運動時の機能変化</p> <p>第11回：内分泌と生理作用</p> <p>第12回：運動時における体温調節機序</p>						

第13回：環境の変化に対する人体の適応（低酸素・微小重力・寒冷環境）

第14回：講義の総括と期末テスト

テキスト

最新運動生理学（宮村実晴編著、真興交易医書出版部）

参考書・参考資料等

適宜授業内で配布する

学生に対する評価

期末テスト 50 %, 授業内レポート 30 %, 授業内での興味関心態度 20 % で評価する

授業科目名： 学校保健学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐見由紀子			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育、中学校及び高等学校 保健)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） （中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 <p>学校保健活動の目標と意義を理解し、学校保健管理、学校保健教育の具体的活動内容を理解することをねらいとする。小学校から高等学校に通う子どもたちの健康課題には何があるか、またそれに対する解決策としての支援、指導の在り方について自分の考えを述べることができる。</p>						
授業の概要 <p>現代の小学校から高等学校に通う子どもたちの健康課題を理解し、教育としての学校保健活動について考える。学校保健計画立案、保健の授業、健康に関する指導、健康相談、健康観察、安全教育、救急処置法などの具体的な活動例を知ったり、ロールプレイをしたりすることで、学校保健上の課題を把握しその課題解決法を検討する。</p>						
授業計画 <p>第1回：学校保健の領域および目標について～誰のための誰による活動か？</p> <p>第2回：保健管理の実際～教育としての健康診断とは？</p> <p>第3回：保健管理の実際～ロールプレイを通して、学校保健計画立案についてイメージしよう</p> <p>第4回：保健管理の実際～健康観察、保健調査から何を見るのか？</p> <p>第5回：保健管理の実際～健康相談ロールプレイ 子どもの健康課題にどう向き合うか？</p> <p>第6回：健康相談から見出した自身の課題について、その解決法～調べたことを発表</p> <p>第7回：保健管理の実際～学校における救急処置について（三角巾、包帯法実習）</p> <p>第8回：保健管理の実際～学校における救急処置について（エピペン実習と食物アレルギーへの対応、止血法実習）</p> <p>第9回：保健管理の実際～災害、不審者などへの安全対策について</p> <p>第10回：保健管理の実際～子どもに多い病気や症状についてパワーポイントにまとめよう</p> <p>第11回：保健管理の実際～子どもに多い病気や症状について発表しよう</p> <p>第12回：保健教育の実際～幼児から中学校までの健康に関する指導の模擬授業</p> <p>第13回：保健教育の実際～中学校・高校の保健授業の模擬授業と指導案作成について</p> <p>第14回：学校保健における課題と期待される取り組み</p>						

テキスト

教員養成系大学保健協議会編「学校保健ハンドブック第7次改訂」ぎょうせい、2019年

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

授業における感想20%、小テスト30%、レポート作成・発表50%

授業科目名： 学校保健学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐見由紀子			
			担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校 体育、中学校及び高等学校 保健体育、中学校及び高等学校 保健)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育（小学校） ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。） （中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 <p>学校保健活動の目標と意義を理解し、学校保健管理、学校保健教育の具体的活動内容を理解することをねらいとする。小学校から高等学校に通う子どもたちの健康課題には何があるか、またそれに対する解決策としての支援、指導の在り方について自分の考えを述べることができる。</p>						
授業の概要 <p>現代の小学校から高等学校に通う子どもたちの健康課題を理解し、教育としての学校保健活動について考える。学校保健計画立案、保健の授業、健康に関する指導、健康相談、健康観察、安全教育、救急処置法などの具体的な活動例を知ったり、ロールプレイをしたりすることで、学校保健上の課題を把握しその課題解決法を検討する。</p>						
授業計画 <p>第1回：学校保健の領域および目標について～誰のための誰による活動か？</p> <p>第2回：保健管理の実際～教育としての健康診断とは？</p> <p>第3回：保健管理の実際～ロールプレイを通して、学校保健計画立案についてイメージしよう</p> <p>第4回：保健管理の実際～健康観察、保健調査から何を見るのか？</p> <p>第5回：保健管理の実際～健康相談ロールプレイ 子どもの健康課題にどう向き合うか？</p> <p>第6回：健康相談から見出した自身の課題について、その解決法～調べたことを発表</p> <p>第7回：保健管理の実際～学校における救急処置について（三角巾、包帯法実習）</p> <p>第8回：保健管理の実際～学校における救急処置について（エピペン実習と食物アレルギーへの対応、止血法実習）</p> <p>第9回：保健管理の実際～災害、不審者などへの安全対策について</p> <p>第10回：保健管理の実際～子どもに多い病気や症状についてパワーポイントにまとめよう</p> <p>第11回：保健管理の実際～子どもに多い病気や症状について発表しよう</p> <p>第12回：保健教育の実際～幼児から中学校までの健康に関する指導の模擬授業</p> <p>第13回：保健教育の実際～中学校・高校の保健授業の模擬授業と指導案作成について</p> <p>第14回：学校保健における課題と期待される取り組み</p>						

テキスト

教員養成系大学保健協議会編「学校保健ハンドブック第7次改訂」ぎょうせい、2019年

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

授業における感想20%、小テスト30%、レポート作成・発表50%

授業科目名:英語科研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名: 阿部始子、志野文乃			
			担当形態: クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語					
授業のテーマ及び到達目標						
小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子供向けの歌や詩など）・異文化理解に関する背景的な知識を身につけることを到達目標とする。						
授業の概要						
外国語活動・外国語科の授業運営に必要な英語表現について、読む・書く・聞く・話す（やりとり・発表）活動を通じて、運用能力を高める。英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子供向けの歌や詩など）・異文化理解に関する背景的な知識を授業場面を意識しながら体験的に学習する。						
授業計画						
第1回：第二言語習得に関する基本的な知識・英語運用能力（聞く）						
第2回：音声に関する基本的な知識・英語運用能力（話す：やりとり）						
第3回：正書法及び語彙に関する基本的な知識・英語運用能力（話す：やりとり）						
第4回：文構造・文法に関する基本的な知識・英語運用能力（話す：発表）						
第5回：児童文学に関する基本的な知識・英語運用能力（読む）						
第6回：異文化理解に関する基本的な知識・英語運用能力（書く）						
第7回：授業のまとめ						
テキスト						
特に指定しない						
参考書・参考資料等						
小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）						
小学校学習指導要領解説 外国語編・外国語活動編（平成29年3月 文部科学省）						
中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月 文部科学省）ほか						
学生に対する評価						
授業への積極的な参加、通常・最終課題への取り組みなどを総合的に判断する。						

授業科目名： 英文法演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 阿戸 昌彦			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語学（中学校、高等学校）					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際社会におけるコミュニケーションツールとして英語を運用する能力の基礎を確認し、英語を使いこなせる英文法の力を身につけるとともに、英語を教える際に役立つ知識として活用できるよう、実践的な英文法の定着を図る。小学校・中学校・高等学校すべてにおいて文法的に正しい文を児童・生徒に提示、説明ができるようにする。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>基礎的文献・課題文をもとに英文法のポイントを確認する。そのポイントや文のニュアンスを自分の言葉で（小・中・高それぞれ自分が教えるであろう児童・生徒を想定して）説明できるようグループでのディスカッション、練習問題への取り組みを通して演習を行う。必要に応じて課題を課す。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：身につけるべき英文法の知識とは何か、演習と講義を行う</p> <p>第2回：単純現在形の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第3回：現在進行形の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第4回：現在完了形の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第5回：現在完了形と単純過去形の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第6回：完了進行形・過去完了形の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第7回：未来を表す表現の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第8回：まとめ（時制と相）と確認試験</p> <p>第9回：助動詞（1）認識的用法の法助動詞の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第10回：助動詞（2）根源的用法の法助動詞の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第11回：助動詞（3）法助動詞と迂言的表現、助動詞を用いた表現の用法を正しく理解し、使えるよう講義・演習をする</p> <p>第12回：受動態（1）受動態が用いられる理由を知り、正しく使えるようにする</p> <p>第13回：受動態（2）受動の意味を含む表現について演習と講義をする</p>						

第14回：まとめ（助動詞・受動態）と確認試験

テキスト

Murphy, R. and William R. Smalzer *Grammar in Use Intermediate*, Cambridge University Press

参考書・参考資料等

江川泰一郎『英文法解説』金子書房

安藤貞雄『現代英文法講義』開拓社

Swan, Michael *Practical English Usage* 4th ed. Oxford University Press

Swan, Michael and C. Walter *Oxford English Grammar Course: Intermediate*, Oxford University Press

Azar, B. S. and S. A. Hagen *Understanding and Using English Grammar* 4th ed. Pearson Education ESL

他 授業において適宜指示する

学生に対する評価

課題の提出 10%程度、試験 90% (45%×2) 程度を基に総合的に評価する

S：総合点が90点以上

積極的に授業（ディスカッション）に参加し、授業で扱った文法項目について十分に理解している。学んだ知識を教育・自身の学習に活用することへの意欲・関心が高い。

A：総合点が80点以上

積極的に授業（ディスカッション）に参加し、授業で扱った文法項目についておおむね理解している。学んだ知識を教育・自身の学習に活用しようとしている。

B：総合点が70点以上

授業（ディスカッション）には積極的に参加し、授業内容についてはほぼ理解しているが、自分の言葉で説明するにはやや不十分な点もある。教育や自身の学習に生かそうとする意欲は見られる。

C：総合点が60点以上

授業（ディスカッション）には積極的に参加し、授業内容についてもほぼ理解はしているが、自分の言葉で説明をするには不十分な点がみられる。自身の学習に生かそうとする意欲は見られる。

不合格：総合点が60点未満

特に授業への積極的な参加がない。知識を教育・自身の学習に生かそうという意欲がみられない。

授業科目名： 英文法演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：阿戸 昌彦 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語学（中学校、高等学校）					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際社会におけるコミュニケーションツールとして英語を運用する能力の基礎を確認し、英語を使いこなせる英文法の力を身につけるとともに、英語を教える際に役立つ知識として活用できるよう、実践的な英文法の定着を図る。小学校・中学校・高等学校すべてにおいて文法的に正しい文を児童・生徒に提示、説明ができるようとする。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>英文法演習Ⅰに引き続き、基礎的文献・課題文をもとに英文法のポイントを確認する。そのポイントや文のニュアンスを自分の言葉で（小・中・高それぞれ自分が教えるであろう児童・生徒を想定して）説明できるようグループでのディスカッション、練習問題への取り組みを通して演習を行う。必要に応じて課題を課す。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：国際共通語としての現代英語の文法を英語の歴史の中で観察し、身につけるべき英文法の事例を名詞・形容詞・非定形節を中心に考える</p> <p>第2回：不定詞と-ing形（1）動詞の補部として生起する不定詞・-ing形の用法を理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第3回：不定詞と-ing形（2）形容詞の補部として生起する不定詞・-ing形の用法を理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第4回：動名詞と派生名詞の用法を理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第5回：名詞（1）可算名詞・不可算名詞の違いを知り、使いこなせるよう演習をする</p> <p>第6回：名詞（2）冠詞の用法を理解し、正しく使えるよう演習をする</p> <p>第7回：形容詞の基本的な用法を理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第8回：比較（1）比較形が表すことを理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第9回：比較（2）最上級形が表すことを理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第10回：前置詞の用法を理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第11回：関係節（1）制限用法を理解し、使えるよう演習をする</p> <p>第12回：関係節（2）非制限用法を理解し、正しく使えるように演習を行う</p>						

第13回：仮定法の発達・現代英語での用法を理解し、使えるよう演習をする

第14回：まとめと定期試験

テキスト

Murphy, R. and William R. Smalzer *Grammar in Use Intermediate*, Cambridge University Press

参考書・参考資料等

江川泰一郎『英文法解説』金子書房

安藤貞雄『現代英文法講義』開拓社

Swan, Michael *Practical English Usage* 4th ed. Oxford University Press

Swan, Michael and C. Walter *Oxford English Grammar Course: Intermediate*, Oxford University Press

Azar, B. S. and S. A. Hagen *Understanding and Using English Grammar* 4th ed. Pearson Education ESL

他 授業において適宜指示する

学生に対する評価

課題の提出 10%程度、試験 90%程度を基準として総合的に評価する。

S：総合点が90点以上

積極的に授業（ディスカッション）に参加し、授業で扱った文法項目について十分に理解している。学んだ知識を教育・自身の学習に活用することへの意欲・関心が高い。

A：総合点が80点以上

積極的に授業（ディスカッション）に参加し、授業で扱った文法項目についておおむね理解している。学んだ知識を教育・自身の学習に活用しようとしている。

B：総合点が70点以上

授業（ディスカッション）には積極的に参加し、授業内容についてはほぼ理解しているが、自分の言葉で説明するにはやや不十分な点もある。教育や自身の学習に生かそうとする意欲は見られる。

C：総合点が60点以上

授業（ディスカッション）には積極的に参加し、授業内容についてもほぼ理解はしているが、自分の言葉で説明をするには不十分な点がみられる。自身の学習に生かそうとする意欲は見られる。

不合格：総合点が60点未満

特に授業への積極的な参加がない。知識を教育・自身の学習に生かそうという意欲がみられない。

授業科目名： 英語音声学概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：阿戸 昌彦 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語学（中学校、高等学校）					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>将来英語を教える際に要求される、最低限必要な調音音声学の理論を理解し、知識を身につける。演習を通して、より自然な英語の発音・聴解力を身につける。小学校・中学校・高等学校いずれにおいても「正しい発音」「適切なリズム・イントネーション」で英語を使うことの大切さを理解する。調音の方法を理解し、自分の言葉で伝えられるようにする</p>						
<p>授業の概要</p> <p>英語（主としてアメリカ英語）で使われる音の体系と調音の方法を知り、より自然な発音と聞き分けができるように講義、演習を行う。</p> <p>音に関する基本的な音韻現象について講義する。</p> <p>日本語と英語の音体系の違いを知り、自分の言葉で説明・発音指導ができるよう演習を行う。必要に応じてphonicsの学習を取り入れる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：音と文字の関係について知る</p> <p>第2回：調音器官の名称と働きについて知る</p> <p>第3回：子音の発音（1）閉鎖音の理解と発音演習 音節について知る</p> <p>第4回：子音の発音（2）摩擦音の理解と発音演習 音節内の子音結合・音連続について演習と講義をする</p> <p>第5回：子音の発音（3）破擦音・鼻音の理解と発音演習 音の脱落について演習と講義をする</p> <p>第6回：子音の発音（4）半母音・側音の理解と発音演習 音の同化・異化について演習と講義をする</p> <p>第7回：母音の発音（1）アに聞こえる音の理解と発音演習 語アクセント・接辞が関わるアクセントについて演習と講義をする</p> <p>第8回：母音の発音（2）イに聞こえる音の理解と発音演習 複合語アクセント・句アクセントについて演習と講義をする</p>						

第9回：母音の発音（3）ウに聞こえる音の理解と発音演習

第10回：母音の発音（4）エに聞こえる音の理解と発音演習

弱形と強形・リズムについて演習と講義をする

第11回：母音の発音（5）オに聞こえる音の理解と発音演習

イントネーションについて演習と講義をする

第12回：発音まとめ（1）前半グループによるプレゼンテーション

第13回：発音まとめ（2）後半グループによるプレゼンテーション

第14回：まとめ（音声・音韻の特性）と確認試験

テキスト

竹林滋 他 『改訂新版 初級英語音声学』

必要に応じて資料を配布

参考書・参考資料等

川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館書店

牧野武彦『大人の英語発音講座』NHK出版

竹内真生子『日本人のための英語発音完全教本』

Collins, B. *Practical Phonetics and Phonology: A Resource Book for Students.* Routledge
ge

有本純ほか『英語発音の指導』三修社

他 授業において適宜紹介する

学生に対する評価

発音実技40%程度 定期試験40%程度 課題20%程度 をもとに授業における演習への積極的参加を考慮し、総合的に評価する。

A: 実技・定期試験で90点以上 発音実技と音声・音韻の特性に関して高い理解がある。授業の演習に積極的に参加している。よりよい発音指導を考えながら課題に取り組んでいる。

B: 実技・定期試験で80点以上、発音実技と音声・音韻の特性に関して十分な理解がある。授業の演習に積極的に参加している。よりよい発音指導を考えながら課題に取り組んでいる。

C: 実技・定期試験で70点以上 発音実技と音声・音韻に関する理解がある。授業の演習に積極的に参加している。発音指導を考えながら課題に取り組んでいるが、授業で得たことを十分に生かしていないところもある。

D: 実技・定期試験で60点以上 発音実技と音声・音韻に関する理解にやや不十分な箇所もみられるが、おおむね理解はできている。授業の演習に積極的に参加している。発音指導を考えながら課題に取り組んでいるが、授業で得たことを十分に生かしていない。

不合格：上記合格基準を満足していない。

授業科目名： 英語史概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 阿戸 昌彦			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語学（中学校、高等学校）					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>およそ1600年にわたる英語の歴史的変遷を内面史と外面史の両側面から理解する。現代英語に残る古い時代の英語の影響があることを知り、現代英語を学ぶ際や英語を教える際に英語史の知識が有用であること理解する。小学校からの英語科教育において、英語圏文化の歴史的背景を知識として持っておくことが将来的に国際的なコミュニケーション力の発揮につながることを理解する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>英語の歴史的変遷（英語を取り巻く社会、および文字・語彙・文法・音声の発達）について、また、グローバル化し国際共通語となった英語の現状について講義する。また、理解を深めるための課題を数回課す。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：人類と言葉の始まり</p> <p>第2回：インドヨーロッパ祖語・ゲルマン語の中の英語</p> <p>第3回：ゲルマン人の侵攻と英語・キリスト教の伝来と英語の文字</p> <p>第4回：ヴァイキングの侵攻と英語（語彙・文法・音声）への影響</p> <p>第5回：ノルマン人の侵攻と英語（語彙・文法・音声）への影響・英語暗黒の時代とそこからの復権</p> <p>第6回：印刷技術・大母音推移・ルネサンスと英語（語彙・文法・音声）への影響</p> <p>第7回：Shakespeareの時代の英語（語彙・文法・音声）</p> <p>第8回：英語（語彙・文法・音声）の標準化から国際共通語としての現代英語へ</p> <p>第9回：名詞の屈折とその衰退</p> <p>第10回：代名詞・冠詞の屈折の変化</p> <p>第11回：形容詞・副詞の屈折の変化</p> <p>第12回：動詞の活用形の変化</p> <p>第13回：助動詞の発達</p>						

第14回：外面史・内面史の振り返りと試験

テキスト

必要に応じて資料を配布する

参考書・参考資料等

朝尾幸次郎『英語の歴史から考える英文法の「なぜ」』大修館書店

児馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房

家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房

その他、適宜授業において紹介する

学生に対する評価

試験 80% 課題 20% を総合的に評価する

S：総合点が90点以上

積極的に授業に参加し、授業で扱った項目について十分に理解している。学んだ知識を教育・自身の学習に活用することへの意欲・関心が高い。

A：総合点が80点以上

積極的に授業に参加し、授業で扱った項目についておおむね理解している。学んだ知識を教育・自身の学習に活用しようとしている。

B：総合点が70点以上

授業には積極的に参加し、授業内容についてほぼ理解しているが、自分の言葉で説明するにはやや不十分な点もある。教育や自身の学習に生かそうとする意欲は見られる。

C：総合点が60点以上

授業には積極的に参加し、授業内容についてもほぼ理解はしているが、自分の言葉で説明をするには不十分な点がみられる。自身の学習に生かそうとする意欲は見られる。

不合格：総合点が60点未満

特に授業への積極的な参加がない。知識を教育・自身の学習に生かそうという意欲がみられない。

授業科目名： 英米文学概論A	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：大田信良 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・小学校（外国語） ・英語文学（中学校、高等学校）					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>代表的・範例的な諸テクストの集合体からなるイギリス文学・英語文学の特質を、ナショナルだけでなく、ローカル／グローバルにも、狭義の文学を含む現在の英語メディア文化の空間において学ぶことにより、それぞれのレベルにおける歴史・文化のコンテクストおよびテクストで表象・使用される表現・修辞構造を理解することができる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>旧来のナショナルなイギリス文学史・英文学史を批判的に学び直すことにより、ローカル／グローバルな英語文学の歴史的展開・空間的転回の過程を学ぶ。また、小学校英語科学習指導要領に示されている異文化理解や言語習得・リテラシーについて、児童文学の視点からも、理論的・実践的に学ぶ。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション イギリス文学・英語文学の特質を問うことの意味</p> <p>第2回：シェイクスピアの歴史劇を中心とする18世紀以前の英文学</p> <p>第3回：イギリス教養小説を中心とする19世紀の英文学</p> <p>第4回：20世紀モダニズム以降の英文学</p> <p>第5回：21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 ウェールズの神話・文学／イングランドとイングリッシュネスの表象</p> <p>第6回：現在の英語メディア文化の空間におけるローカライゼーションの例</p> <p>第7回：21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 スコットランドの歴史小説・啓蒙主義</p> <p>第8回：21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 アイルランド文学とトランスマスアトランティックな移動</p> <p>第9回：グローバル化する英語文学 新たな帝国アメリカ／アメリカナイゼーションに対応するイギリス文学</p> <p>第10回：グローバル化する英語文学 コロニアリズム・フェミニズム・セクシュアリティの文学あるいはグローバル冷戦のなかの文学</p> <p>第11回：グローバル化する英語文学 アジア・トランスマスアトランティックな表象と世界文学の編制・再編</p>						

第12回：ナショナルな日本とのグローバルな空間とイギリス文学・英語文学

第13回：マルチカルチャリズムあるいはdiversityの文学・表象とはなんだったのか

第14回：授業の総括と定期試験

テキスト

なし（あるいは、授業の初回に指示する）

参考書・参考資料等

Frank Kermode, and John Hollander, eds. *The Oxford Anthology of English Literature, vol 1&2*. Oxford: Oxford UP, 1973.

Northrop Frye. *Anatomy of Criticism: Four Essays*. Princeton: Princeton UP, 1957.

Fredric Jameson. *The Political Unconscious: Narrative as a Socially Symbolic Act*. Ithaca: Cornell UP, 1981.

Fredric Jameson. *The Antinomies of Realism*. London: Verso, 2013.

Franco Moretti. *Distant Reading*. London: Verso, 2013.

大田信良『帝国の文化とリベラル・イングランド——戦間期イギリスのモダニティ』東京：慶應義塾大学出版会, 2010.

三浦玲一編『文学研究のマニフェスト——ポスト理論・歴史主義の英米文学批評入門』東京：研究社, 2012.

川本静子『イギリス教養小説の系譜——「紳士」から「芸術家」へ』東京：研究社, 1973.

Jed Esty. *Unseasonable Youth: Modernism, Colonialism, and the Fiction of Development*. Oxford: Oxford UP, 2012.

Bruce Robbins. *Upward Mobility and the Common Good: Toward a Literary History of the Welfare State*. Princeton: Princeton UP, 2007.

大谷伴子『マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」——英国史劇とブルゴーニュ公国』横浜：春風社, 2014.

大谷伴子『秘密のラティガン——戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間』横浜：春風社, 2015.

学生に対する評価

定期試験（60%）、プレゼンテーション（20%）、小レポート（20%）

授業科目名： 英米文学概論B	教員の免許状取得のための 選択科目（小）	単位数： 2単位	担当教員名：斎木郁乃		
	必修科目（中・高）		担当形態： 単独		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)				
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語（小学校） ・ 英語文学（中学校、高等学校）				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>この授業は、(1) 近年の批評的潮流であるアメリカ文学研究におけるトランスナショナリズムについて概説し、(2) グローバル／ポストコロニアル／トランスナショナルな視点からアメリカ史を見直し、(3) 18、19世紀アメリカの代表的な文学作品や史料を解釈することを通して文学作品を読む力を養うことを目的とする。</p> <p>また、小学校外国語において求められる、外国語による主体的なコミュニケーションに必要な言語の文化的背景知識について考える。</p>					
授業の概要					
<p>18～19世紀のアメリカ文学を、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教や美学の観点から精読し、近年の批評的潮流であるトランスナショナリズムが、アメリカン・ルネサンスの枠組みをどのように変容させ、また「アメリカ」文学と呼ばれるものの地平を広げたかを探求する講義。</p>					
授業計画					
<p>第1回： イントロダクション</p> <p>第2回： アメリカ文学研究とトランスナショナリズム</p> <p>第3回： ヴァージニア植民地の邂逅 [Pocahontas and John Smith]</p> <p>第4回： セイラムの魔女 [The Crucible, The Scarlet Letter]</p> <p>第5回： ジェファソンと奴隸 [The Declaration of Independence, Sally Hemings]</p> <p>第6回： ハイチ革命と奴隸制 [“Benito Cereno,” Tell My Horse]</p> <p>第7回： 授業のまとめ、中間テスト</p> <p>第8回： 捕鯨のグローバリズム [Moby-Dick, In the Heart of the Sea]</p> <p>第9回： 「共和国の母」の反乱 [Margaret Fuller, Lydia Maria Child]</p> <p>第10回： 黒人女性から見る南部再建 [Pauline Elizabeth Hopkins]</p> <p>第11回： 消されゆく人々の証言 [William Apes, Simon Pokagon, Leslie Marmon Silko]</p> <p>第12回： 父権を超えて（アメリカ編） [Stories of Sarah Orne Jewett]</p> <p>第13回： 父権を超えて（カナダ編） [Anne of Green Gables and other stories]</p>					

第14回： 期末テスト、授業のまとめ

テキスト

毎回プリントを配布。

参考書・参考資料等

Takayuki Tatsumi, *Young Americans in Literature: The Post-Romantic Turn in the Age of Poe, Hawthorne and Melville* (Sairyusha), 諏訪部浩一責任編集『アメリカ文学入門』（三修社）他、授業中に適宜紹介。

学生に対する評価

リアクション・シート（20%）、中間・期末テスト（80%）を基準に、総合的に判断する。

授業科目名： 英作文 I	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名： Suzuki Steven Taro 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語））					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語コミュニケーション（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 小中学校での英語教育に資する英語運用能力の習得を目指し、批判的思考と学術論文等の構成に焦点を当て作文能力を改善する。						
授業の概要 学術論文を代表とするアカデミックライティングに必要なスキルの習得を目指し、学術論文の校正を分析したり、論文のテーマ設定のためのブレインストーミングやディスカッションを行った後、実際に作文演習を行い、学術論文に近い形の学期末レポートを提出する。						
授業計画 第1回：本授業と指導法について 第2回：（学術）論文等について議論 第3回：議論と作文（講義） 第4回：議論と作文（演習） 第5回：作文プロジェクトに向けてトピック選定 第6回：グループワーク 第7回：プレゼンテーション（前半グループ） 第8回：プレゼンテーション（後半グループ） 第9回：作文プロジェクト：ディスカッション 第10回：作文プロジェクト：ピアチェック 第11回：学期末レポート：対象論文 第12回：学期末レポート：ディスカッション 第13回：学期末レポート：質疑応答 第14回：最終ディスカッション						
テキスト なし						
参考書・参考資料等 English Grammar in Use with Answers (Book & CD-ROM), Raymond Murphy, Cambridge						

学生に対する評価

プレゼンテーションなど主体的授業参加状況(20%)、課題(30%)、学期末レポート(50%)

授業科目名： 英会話 I	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名： Suzuki Steven Taro			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語））					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語コミュニケーション（中学校、高等学校）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小中学校での英語教育に資する英語運用能力の習得を目指し、英語によるプレゼンテーションやグループディスカッションに必要なコミュニケーションスキルの基礎を、発音、リズム、イントネーション、強勢といった音声面のトレーニングを通して身に付ける。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>ネット化、グローバル化する世界における英語コミュニケーションスキルを意識して、英語という言語の背景にある文化的側面にも注目しながら、授業テーマに沿った会話練習や会話活動を行う。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：個人スピーチ</p> <p>第3回：グループプロジェクトの説明、会話練習</p> <p>第4回：グループプロジェクトの構想設計、個人スピーチへのフィードバック</p> <p>第5回：グループプロジェクトの発表練習</p> <p>第6回：効果的なコミュニケーションのためのスキル</p> <p>第7回：聴衆を引き付けるプレゼンテーションのためのスキル</p> <p>第8回：個人プレゼンテーション（第1グループ発表）</p> <p>第9回：個人プレゼンテーション（第2グループ発表）</p> <p>第10回：個人プレゼンテーション（第3グループ発表）</p> <p>第11回：グループプロジェクトの発表に向けたディスカッション</p> <p>第12回：グループプロジェクト（第1グループ発表）</p> <p>第13回：グループプロジェクト（第2グループ発表）</p> <p>第14回：個人プレゼンテーション及びグループプロジェクトの振り返り</p>						
<p>テキスト</p> <p>なし</p>						
<p>参考書・参考資料等</p>						

なし

学生に対する評価

個人プレゼンテーション(20%)； グループプロジェクト (70%)； 振り返りレポート (10%)

授業科目名： 英語読解 I	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 1単位	担当教員名： 大田信良 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語））					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・英語コミュニケーション（中学校、高等学校）					
授業の到達目標及びテーマ 様々なジャンルやテーマの英文を読み、内容を正確にとらえ、その情報をアウトプットにつな げられる英語読解力を身につける。						
授業の概要 多様なリーディング活動を通して総合的な読解力を養う。精読を基本としつつ、速読や多読、 楽しみのための読書にも焦点を当てた授業。また、小学校英語科の異文化理解に関する内容も 視野に入れ解説する。						
授業計画 第1回： イントロダクション 読解力向上の方法、辞書の使い方について 第2回： 新聞・雑誌記事（1） テーマをつかむ 第3回： 新聞・雑誌記事（2） パラグラフ・リーディングの基礎 第4回： ウェブ・サイト（1） スキミングの方法 第5回： ウェブ・サイト（2） スキャニングの方法 第6回： 演劇（1） 口語的な表現の理解 第7回： 演劇（2） 脚本を使った会話の練習 第8回： 短編小説（1） あらすじをまとめる方法 第9回： 短編小説（2） 解釈を書く方法 第10回： 長編小説【抜粋】（1） 文脈から意味を類推する方法 第11回： 長編小説【抜粋】（2） 創造的に読む方法 第12回： 詩や歌詞 行間を読む 第13回： 学術的な英文 アウトラインを作る方法・書くために読む方法 第14回： 授業の総括と定期試験						
テキスト 毎回資料を配布する。						
参考書・参考資料等 Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries, <i>More Reading Power</i> , 2nd ed., Longman,						

*Oxford Advanced Learner's Dictionary, Longman Dictionary of Contemporary English,
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary*

学生に対する評価

定期試験（80%）と授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。

授業科目名： イギリス文化概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名：浦口理麻 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・異文化理解（中学校、高等学校）					
授業のテーマ及び到達目標 イギリスの文化や歴史、社会についての知識を増やすことはもちろんのことながら、映画を通して社会の問題に目を向け、解決方法を自身で考えることの重要性を学ぶことを目標とする。また、映画やドラマを観ることでリスニングの力をつけ、日常生活で使える口語表現を学び、小学校の英語科の授業で英語を使って授業を行う際のコミュニケーションに必要な能力も身につけることも視野に入れる。						
授業の概要 イギリスで制作された映画やドラマを通して、イギリスの地域性、文化、歴史、政治、宗教、芸術、社会福祉制度等について学ぶ。課題となる映画を授業前（授業時間外）に視聴し、授業での解説を踏まえながらディスカッションを行い、様々な意見を出し合っていく。最終的には、イギリスの抱える問題を日本に置き換えて考えたり、学校での教育にどう活用できるかを論じたりすることで、ただ映画を楽しみ、イギリス文化を味わうだけの授業ではなく、芸術を社会生活にどう活かしていくかを検討する授業とするつもりである。また、映画とドラマの視聴を通してリスニング力を伸ばし、英語表現を学ぶことで、小学校の英語科の授業で英語を使ってコミュニケーションを行う力も伸ばしていくことも視野に入れる。						
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：婦人参政権運動（『未来を花束にして』） 第3回：宗教、移民（『カセットテープ・ダイアリーズ』） 第4回：アイルランドの歴史①（『麦の穂を揺らす風』） 第5回：サッチャー政権とイギリス映画（『フルモンティ』） 第6回：アイルランドの歴史②（『シング・ストリート 未来へのうた』） 第7回：サッチャー政権と炭鉱閉鎖①（『リトル・ダンサー』） 第8回：サッチャー政権と炭鉱閉鎖②（『パレードへようこそ』） 第9回：ウェールズの歴史（『ウェールズの山』） 第10回：福祉制度（『わたしは、ダニエル・ブレイク』） 第11回：ギグ・ワーカー（『家族を想うとき』）						

第12回：EU離脱（『ブレグジット EU離脱』）

第13回：アフガン戦争（『SHERLOCK』『私立探偵コーモラン・ストライク』）

第14回：授業のまとめと試験

定期試験

テキスト

必要な資料はオンライン上で配布する。

参考書・参考資料等

授業時間中に適宜指示する。

学生に対する評価

毎週出される課題（30%）、授業内でのアクティビティ（15%）、授業内でのまとめのテスト（15%）、最終試験（40%）

授業科目名： アメリカ文化概論	教員の免許状取得のための 選択科目（小） 必修科目（中・高）	単位数： 2単位	担当教員名： 斎木郁乃 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校 外国語（英語）)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語（小学校） ・異文化理解（中学校、高等学校）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アメリカ映画を通じて、人種・ジェンダーの多様性、アメリカン・ドリーム、物質万能主義、アメリカニズム、家族、戦争と暴力、エンターテイメント、テクノロジーといったアメリカ文化の諸相を学ぶ。</p> <p>また、小学校外国語において求められる、外国語による主体的なコミュニケーションに必要な言語の文化的背景知識について考える。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>毎回テーマに沿った映画を取り上げ、そこに描かれるアメリカ文化特有の現象を歴史的背景や社会情勢などと照らし合わせつつ映像及びハンドアウトを用いて講義する。期末試験の他に、授業で取り上げた作品から気に入った作品を一つ選んで鑑賞し、レポートを提出する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション アメリカ文化の諸相</p> <p>第2回： テクノロジーとアメリカン・パストラル：<i>Modern Times</i> (1936)</p> <p>第3回： アメリカン・ドリームの悪夢：<i>Psycho</i> (1960)</p> <p>第4回： サンフランシスコのアウトロー：<i>Dirty Harry</i> (1971)</p> <p>第5回： ベトナム戦争後のアメリカン・ドリーム：<i>Rocky</i> (1976)</p> <p>第6回： ウーマン・リブの余波：<i>Kramer vs. Kramer</i> (1979)</p> <p>第7回： 戦争の理想と現実：<i>Platoon</i> (1986)</p> <p>第8回： 暴力と黒人民族主義：<i>Malcolm X</i> (1992)</p> <p>第9回： 無垢／無知な英雄：<i>Forrest Gump</i> (1994)</p> <p>第10回： 銃社会の矛盾：<i>Bowling for Columbine</i> (2002)</p> <p>第11回： LAにおける他民族の衝突：<i>Crash</i> (2004)</p> <p>第12回： スモールタウンの悲恋：<i>Brokeback Mountain</i> (2005)</p> <p>第13回： ドラッグクイーンの母性：<i>Any Day Now</i> (2012) ゲストスピーカー（留学生など）によるミニレクチャー（アジアにおける人種・ジェンダー表象）の後、ゲストスピーカーを交えたグループワーク、ディスカッション</p>						

レポート提出

第14回：「真実の愛のキス」とは？：*Maleficent* (2014)

ゲストスピーカー（留学生など）によるミニレクチャー（ヨーロッパにおける人種・ジェンダー表象）の後、ゲストスピーカーを交えたグループワーク、ディスカッション

定期試験

テキスト

毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

志村正雄『映画・文学・アメリカン』松柏社、2015年、他、適宜授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末試験（70%）とレポート(30%)に基づく総合評価。

授業科目名： 体育科指導演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松井 直樹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
授業のテーマ及び到達目標：小学校体育科の指導法、教材研究の方法、教材解釈の視点について実技を通して学ぶ。授業づくりに必要な基礎的知識を学び、その活用方法を知る。小学校の体育科授業を実践する上で自ら授業の在り方を構想できるようになることを到達目標とする。						
授業の概要：小学校体育科で扱う運動について、実技を通してその運動の「面白さ」に視点を当て、子どもたちに身に付けさせたい学習内容を考える。教材研究や指導法に加え、学習形態（グループ学習）の意義と方法、学習カードの意義と使い方、ICT利用についても内容とする。体育科授業の具体的な進め方「どのように教えるのか」を身に付けるだけでなく、「何を教えるのか」「なぜ教えるのか」「どのように発展するのか（系統性）」も考えながら、実技を通して学ぶことを構想する。本講義は、小学校学習指導要領体育編の内容理解も含む。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション「この授業で何を学ぶのか」						
第2回：体つくり運動 体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動遊び（学習ルールの意味）						
第3回：体つくり運動 多様な動きをつくる運動、体の動きを高める運動（教材研究の方法）						
第4回：体つくり運動（学習指導案作成のポイント）						
第5回：体つくり運動（模擬授業と教師行動）						
第6回：ボール運動ゲーム ゴール型（作戦づくり、戦術学習）						
第7回：ボール運動ゲーム ネット型（教材づくりのポイント）						
第8回：ボール運動ゲーム ベースボール型（基礎技能の獲得）						
第9回：器械運動 マット運動（場の工夫と意味）（ICT機器の活用）						
第10回：器械運動 跳び箱運動（グループ学習の方法）						
第11回：陸上運動 リレー・短距離走（運動技術の意味）						
第12回：陸上運動 リズム走・ハードル走（教具の機能）						
第13回：陸上運動 走り幅跳び・走り高跳び（動きづくりの発展）						
第14回：表現・リズム遊び・表現運動（講義のまとめとレポート作成に向けて）						
テキスト： 使用しない						
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領 体育編						
学生に対する評価：授業へ取り組み及びグループ毎の活動発表、内容理解を総合して評価する。学習後に小レポートを課すことがある。参加態度・意欲、小グループでの協議における積極性を重視する。（40%）数回の小レポート及び学期末にレポートを課す。（60%）						

授業科目名： 初等国語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：千田洋幸・中村 和弘・大澤千恵子・中村純子 ・篠崎祐介			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標：小学校国語科の教科構造・内容・目標への理解を深め、授業実践に必要な教材研究や指導案作り、模擬授業を行う具体的で実践的な力を身につける。						
授業の概要：学習指導要領の内容を理解し、指導事項や言語活動例、また教材や情報通信技術の活用等について学び、それに基づいた模擬授業等を行う。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション、言葉の獲得と国語科授業の基本デザイン						
第2回：学習指導要領に示される小学校国語科の目標と内容						
第3回：「言葉の特徴や使い方に関する事項」について						
第4回：「情報の扱い方に関する事項」について						
第5回：「我が国の言語文化に関する事項」について						
第6回：「話すこと・聞くこと」の学習内容と課題						
第7回：「書くこと」の学習内容と課題						
第8回：「読むこと」の学習内容と課題						
第9回：国語科の授業設計と学習指導案						
第10回：国語科の教材研究と指導案作成（情報通信技術の活用を含む）						
第11回：国語科の模擬授業と協議（情報通信技術の活用を含む）						
第12回：「書写」の学習内容について						
第13回：「書写」の教材研究と指導方法						
第14回：講義のまとめ、これから的小学校国語科の課題						
定期試験						
テキスト：田近洵一、他編『小学校国語科授業研究 第五版』教育出版、2018年。						
全国大学書写書道教育学会編『国語科書写の理論と実践』萱原書房、2020年。他						
参考書・参考資料等						
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』平成29年7月 他						
学生に対する評価：授業参加度（30%）および講義中および期末のレポート課題の提出（40%），授業時におけるグループごとの演習課題の取り組み（30%）により総合的に評価する。						

授業科目名： 初等社会科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大澤克美、川崎 誠司、渡部竜也、日高智彦 担当形態： クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領「社会」の記述に基づき、小学校社会科の意義と特質について理解を深める共に、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して社会科の指導に必要な基本的知識や技法を習得する。						
授業の概要 小学校社会科の意義と特質について説明を行い、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。授業はグループワークやICTを活用しながら実施する。						
授業計画 <p>第1回：学習指導要領の趣旨、小・中社会科の目標、背景をなす学問領域との関連について</p> <p>第2回：学習指導要領の各学年の目標・内容と全体構造、児童の発達等に即した授業づくりについて</p> <p>第3回：各グループで学年と単元を選定した授業設計の研究（資料：教科書、要領・解説等）について</p> <p>第4回：各グループによる目標と教材・学習活動等の研究及び本時案の作成、全体での検討について</p> <p>第5回：授業VTRの視聴と検討を踏まえた各グループの学習指導案作成、展開案等の検討について</p> <p>第6回：「主体的・対話的で深い学び」を支える発問・指示・板書等の技術、評価の方法等について</p> <p>第7回：各グループ学習指導案に対する目標、教材、展開、活動等の再検討と修正・加筆について</p> <p>第8回：社会科の学習理論と先行実践の研究、個々による単元の選定と学習指導案の構想について</p> <p>第9回：児童観・授業観、ICT活用、個人学習指導案の検討と提出、模擬授業の準備について</p> <p>第10回：目標、発問・指示、教材・資料等に重点を置いた模擬授業とその省察について</p> <p>第11回：児童の発達や実態、教材・資料、学習活動等に重点を置いた模擬授業とその省察について</p> <p>第12回：ICT活用、学習活動、思考・判断・表現の評価に重点を置いた模擬授業とその省察について</p> <p>第13回：上記模擬授業の省察を踏まえた授業改善の視点、カリキュラム・マネジメント等について</p> <p>第14回：個人学習指導案の改善点を探るグループ検討、授業全体を通した自己課題レポートについて</p>						
テキスト 小学校学習指導要領社会（平成29年3月告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年6月 文部科学省）						
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布・提示する。						
学生に対する評価 最終回の自己課題レポートと個人学習指導案（各40%）、模擬授業に対する省察内容（20%）						

授業科目名： 初等算数科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村光一、西村 圭一、清野辰彦、成田慎之介 、小岩大、太田伸也、久保良 宏、杉田博之
担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。特に、ICTを活用しながら、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを実現する方法も身に付ける。

学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

- ア 学習指導要領における算数科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
 - イ 5領域の学習内容について指導上の留意点を理解している。
 - ウ 算数科の学習評価の考え方を理解している。
 - エ 算数科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 - オ 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
- 基礎的な学習指導理論を理解し、算数科の具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
- ア 算数科における子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
 - イ 算数科の特性に応じた情報通信技術及び教材の効果的な活用法を理解し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業設計に活用することができる。
 - ウ 学習指導案の構成を理解し、算数科の具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
 - エ 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
 - オ 算数科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

授業の概要

小学校算数科の目標について理解し、「数と計算」・「図形」・「測定」・「変化と関係」、「データの活用」の各領域の内容について、数学的立場および教育的立場から考察し、その指導のあり方を考える。算数科の上記領域の内容について、研究課題の解決と模擬授業等を通じて考究する。それぞれの研究課題については、学生による報告やそれに関する討議、数学的

な作業を通して理解を深めていく。

授業計画

第1回：算数教育の目標とその歴史的変遷、算数教育の今日的課題

第2回：数の概念と表記

第3回：整数の加法・減法の数学的意味とその教材化

第4回：整数の乗法・除法の数学的意味とその教材化

第5回：小数・分数の概念と形式

第6回：算数科における量の概念とその教材化（情報通信技術及び教材の活用を含む）

第7回：「測る」ということの意味と測定指導の4段階、量についての子どもの認識の発達

第8回：図形の概念形成と空間観念の育成（情報通信技術及び教材の活用を含む）

第9回：図形指導と論理的思考の育成

第10回：変化と関係のねらいと関数の考え方の意義とその指導

第11回 データの活用の意義とその指導（情報通信技術及び教材の活用を含む）

第12回：算数科問題解決授業の授業設計と実際（指導案作成、模擬授業、情報通信技術及び教材の活用を含む）

第13回：算数科問題解決授業の評価（指導案作成、模擬授業、情報通信技術及び教材の活用を含む）

第14回：定期試験およびまとめ

テキスト

算数教育学研究会編. (2019). 算数教育研究 新版 東洋館出版社.

小学校学習指導要領解説 算数編 (平成29年6月 文部科学省)

参考書・参考資料等

藤井斉亮編著. (2015). 算数・数学科教育 一藝社.

小学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) その他は講義で紹介する

学生に対する評価

討議への参加 (20%) 、レポート (20%) 、定期試験 (60%) によって総合的に評価する

授業科目名： 初等理科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：鎌田正裕、松浦 執、中西（狩野）史、西田尚 央、渡辺理文、山口晃弘、福 岡勤、平田昭雄			
担当形態： クラス分け・単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術及び教材の活用を含む。）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容を理解するとともに、小学校で理科の授業を設計・実施する上で必要となる基本的な知識や技能の獲得を目指す。特に、現在の教育現場と直結した理論的・実践的な学びを重視する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>小学校で理科という教科が置かれている背景や目的および新学習指導要領を概説した後、実際にその教科を指導する上で必要となる子どもの思考の特徴、実験・観察技術、教材研究、指導法について実習を交えながら学習する。これらの学習のち、各自（各グループ）で作成した指導案に基づき模擬授業を行い、それぞれの授業の改善点を共有する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：本授業の目的と方法及び教職課程における本授業の位置づけ</p> <p>第2回：自然科学の特徴と理科教育の役割</p> <p>第3回：学習指導要領で求められる理科の資質能力</p> <p>第4回：子供の思考と理科の学習（発達段階と適時性）</p> <p>第5回：子供の思考と理科の学習（素朴概念と科学的概念）</p> <p>第6回：理科における情報通信技術の活用</p> <p>第7回：安全指導（薬品、加熱器具、フィールドにおける留意点）</p> <p>第8回：理科における観察実験の指導上の留意事項</p> <p>第9回：理科における教材研究と実験・観察の実際（物理、化学分野）</p> <p>第10回：理科における教材研究と実験・観察の実際（生物、地学分野）</p> <p>第11回：理科の授業分析と授業づくりの基本</p> <p>第12回：理科の学習指導案作り</p> <p>第13回：作成した理科学習指導案の検討と模擬授業</p> <p>第14回：模擬授業／ふり返り</p>						
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編 文部科学省</p>						

東洋館出版 本体111円+税

参考書・参考資料等 小学校理科教科書等

学生に対する評価

学期末の課題・レポート(70%)を基本に、授業時間中の小テストや小レポート他(30%)を参照して総合的に評価する。

授業科目名： 初等生活科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 大村龍太郎			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科の性格、目標、内容、方法等の原理について理解することができるようとする。 ○ 生活科の各内容について、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法などの基本を理解することができるようとする。 ○ 理解したことをもとに、具体的な授業の構想することができるようとする。 						
授業の概要 <p>小学校生活科の意義、目標および内容について理解を深めるとともに、教材研究、指導法（いざれも情報通信技術の活用を含む）、評価の方法について学ぶ。</p> <p>また、それらに基づいて指導案を作成し、それをもとに模擬授業を行い、ディスカッションをしながら授業づくりについて考えを深める。</p>						
授業計画 <p>第1回：生活科の理念と原理</p> <p>第2回：生活科の目標</p> <p>第3回：生活科の内容</p> <p>第4回：気付きの質を高める指導</p> <p>第5回：他教科等との関連（スタートカリキュラムを含む）</p> <p>第6回：生活科の特質をふまえた教材研究</p> <p>第7回：指導方法と教材の活用（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：指導上の留意点</p> <p>第9回：生活科における学習評価</p> <p>第10回：低学年児童の理解に基づいた授業設計</p> <p>第11回：指導案作成（1学年）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：模擬授業（1学年）の実施と協議</p> <p>第13回：指導案作成（2学年）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：模擬授業（2学年）の実施と協議</p>						
テキスト <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』東洋館出版社、平成29年7月。</p>						
参考書・参考資料等 <p>適宜、紹介する。</p>						
学生に対する評価 <p>毎回の小レポート 50 %、作成した指導案及び模擬授業内容 50 %で総合的に評価する。</p>						

授業科目名： 初等音楽科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中地雅之、石川裕司、森尻 有貴、田中正雄、越川徹郎			
担当形態： クラス分け・単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標：小学校音楽科の授業を実施するための基本的な内容に関して、理論と実践の両面から理解する。						
授業の概要：音楽科のカリキュラムの構造と内容、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の指導法、各種教材の実践・演習（情報通信技術の活用を含む）など、音楽科教育に関する内容を総合的に取り上げる。						
<p>授業計画</p> <p>第1回：音楽科カリキュラムの概要と学習指導要領の理解</p> <p>第2回：歌唱の学習と指導（低学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第3回：歌唱の学習と指導（中学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第4回：歌唱の学習と指導（高学年）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：器楽の学習と指導（低学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第6回：器楽の学習と指導（中学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第7回：器楽の学習と指導（高学年）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：音楽づくりの学習と指導（低学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第9回：音楽づくりの学習と指導（中学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第10回：音楽づくりの学習と指導（高学年）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第11回：鑑賞の学習と指導（低学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第12回：鑑賞の学習と指導（中学年）（教材研究・演習を含む）</p> <p>第13回：鑑賞の学習と指導（高学年）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：学習の評価 学習指導案の理解 模擬授業と省察</p>						
<p>テキスト</p> <p>『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠（音楽之友社、2020年）』</p>						
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示）</p> <p>文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」（平成29年6月）</p>						
<p>学生に対する評価</p> <p>各活動への参加状況（60%）、まとめの課題（40%）から評価する。</p>						

授業科目名：初等図画工作 科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：笠原広一、清家 颯、佐野（奈須）亮子、松井 素子、増田金吾、井ノ口和子、 立川泰史、山田一美、小林貴 史 担当形態： クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1. 造形活動の歴史や様々な考え方を広く考察することを通して、子供の日常世界から生まれる表現活動の意義を捉えること。</p> <p>2. 図画工作科の目標、教育内容・方法（実際の授業例や指導法など）の全体像を現在の学校と社会の中で捉えること。</p> <p>3. 現代的課題や学習指導要領が示す意義を踏まえ、具体的な図画工作科の活動の在り方を考えたり、自分なりの授業を構想したりして、実践指導力・授業改善力を養う視点をもつこと。</p>						
授業の概要						
<p>様々な資料や講話、小学校図画工作科の題材事例、実践的体験活動を通して、造形表現や図画工作科の特性、子供の思考・判断・表現、知識・技能などに関わりながら考察と理解をすすめていく。前半では、ビデオ教材や作品、資料、講話や対話等を通して、造形活動の歴史や意義を踏まえつつ、図画工作科教育の今日的課題や位置づけ、目的を学習していく。後半では、図画工作科の教育内容・方法（学習指導要領の理解を含む）及び授業構想や題材研究等について教材や資料等を活用しながら検討し（情報通信技術の活用を含む）、現在の学校・社会と子供を起点に実際の授業の姿を捉えていく。</p>						
授業計画						
<p>第1回：オリエンテーション（図画工作科の今日的課題や動向）</p> <p>第2回：美術教育の歴史と理念</p> <p>第3回：図画工作科教育の歴史と理念</p> <p>第4回：子供を取り巻く諸問題と造形活動①子供の身体、内面、嗜好、個性、発達等とのかかわりから</p> <p>第5回：子供を取り巻く諸問題と造形活動②社会的な課題、社会のニーズ、子供文化、美術・芸術・アートの動向、教育観等のかかわりから</p> <p>第6回：図画工作科の学習指導要領（資質・能力及び造形的な見方・考え方の理解を含む）</p> <p>第7回：内容と方法①造形遊び（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：内容と方法②絵に表わす（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第9回：内容と方法③立体に表わす（情報通信技術の活用を含む）</p>						

第10回：内容と方法④工作に表わす（情報通信技術の活用を含む）

第11回：内容と方法⑤鑑賞（情報通信技術の活用を含む）

第12回：授業と学習の構想および学習指導案の作成（情報通信技術の活用を含む）

第13回：模擬授業の実施及び題材研究と教師の働きかけ（情報通信技術の活用を含む）

第14回：模擬授業の実施及び学習評価と授業改善の工夫、まとめ・教育の意味の再考（情報通信技術の活用を含む）

定期試験は実施しない

テキスト

- ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年6月 文部科学省）
- ・教科書「図画工作」1～6年

参考書・参考資料等

- ・図工・美術科教育（教科教育学シリーズ08）（平成27年4月、一藝社）
- ・図画工作・美術教育関係ビデオ教材、教材研究資料等

学生に対する評価

授業後的小論文やワークシート・コメント類（30%）、課題レポート、小テスト等（授業担当者が別途指示する）（20%）のほか、グループワークや口頭発表（30%）、最終段階での提出レポートの内容（20%）により、総合的に判断する。

授業科目名： 初等家庭科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬典子、藤田(工藤)智子		
			担当形態： クラス分け・単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)			
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む)			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①小学校家庭科の教科目標・内容を理解する。</p> <p>②教科目標・内容を踏まえた指導方法を知り、実践へつなげていくことができる。</p> <p>③小学校家庭科の学習指導案を作成できる。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>小学校家庭科を担当するために必要な基礎知識 (家庭科の歴史、教科目標、内容構成、意義、指導方法、学習評価) について理解を深めるとともに、児童の発達段階や生活状況、社会の変化を考慮した教育法や題材 (情報通信技術の活用を含む) の選び方を学ぶ。また、それらをふまえ、学習指導案や教材の作成といった実践的能力を身につける。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、家庭科と生活課題、初等家庭科教育の目標と内容</p> <p>第2回：家庭科教育の理念と歴史的変遷</p> <p>第3回：小学校家庭科の学習内容と方法—家庭生活と家族 (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第4回：小学校家庭科の学習内容と方法—食生活① (調理の基礎) (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第5回：小学校家庭科の学習内容と方法—食生活② (食事の役割、栄養素) (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第6回：小学校家庭科の学習内容と方法—衣生活① (生活を豊かにするための布を使った製作) (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第7回：小学校家庭科の学習内容と方法—衣生活② (衣服の着用と手入れ) (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第8回：小学校家庭科の学習内容と方法—住生活 (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第9回：小学校家庭科の学習内容と方法—消費生活・環境 (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第10回：年間指導計画と学習指導案の作成方法と家庭科における学習評価</p> <p>第11回：学習指導案の検討① 模擬授業- 家族・家庭生活 (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第12回：学習指導案の検討② 模擬授業- 衣食住の生活 (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第13回：学習指導案の検討③ 模擬授業- 消費生活・環境 (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>					
<p>テキスト</p> <p>『小学校学習指導要領』文部科学省 (平成29年3月告示)</p>					

『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省（平成29年6月）

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業時のコメントカード・小課題：45%、模擬授業（指導案・教材の作成、模擬授業及び他者へのコメント）：25%、期末課題：30%の割合で総合的に評価します。

授業科目名： 初等体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：鈴木直樹、鈴木 秀人、鈴木聰、佐藤善人			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校における体育の授業づくりに必要な基礎的知識を習得し、その活用力と実践力の育成を目指す。小学校の体育授業を実践する上で、質の高い教材研究を行い、具体的な授業実践を構想できるようになることが目標である。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>小学校体育の目標・内容・方法について、体育科教育の歴史的変遷や体育の授業づくりに関わる研究成果から考える。体育科の授業づくりは、具体的な進め方という「方法」を身につけるだけでなく、様々な視点から「何を教えるのか」「なぜ教えるのか」を考えながら学びを構想し、実践し、省察することが必要であることを、教材研究を通して学ぶ。その際、体育科における情報活用についても具体的な実践例に触れながら学んでいく。なお、本講義は学習指導要領体育編の内容理解を含む。また、体育科学習指導案の作成演習を行い、初等体育科の指導案作成ができるようになることを目指す。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：体育科の変遷と存在意義について</p> <p>第2回：体育科の社会的役割と現代的目標について</p> <p>第3回：運動の特性のとらえ方について</p> <p>第4回：体育科の授業論と学習内容の考え方について</p> <p>第5回：体育科の単元論について（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第6回：体育科の学習指導論＜学習過程論・学習形態論を含む＞について (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第7回：体育科の学習評価論について（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：体つくり運動の授業づくりについて（教材研究を含む）</p> <p>第9回：器械運動系、表現運動系の授業づくりについて（教材研究を含む）</p> <p>第10回：陸上運動系、水泳運動系の授業づくりについて（教材研究を含む）</p> <p>第11回：ボール運動系の授業づくりについて（教材研究を含む）</p> <p>第12回：保健領域の授業づくりについて</p> <p>第13回：単元学習計画の立案及び体育科学習指導案作成の方法について (情報通信技術の活用を含む)</p> <p>第14回：模擬授業演習・授業研究の内容と方法について (情報通信技術の活用を含む)</p>						
<p>テキスト</p>						

小学校の体育授業づくり入門（学文社）

学び手の視点から創る小学校の体育授業（大学教育出版）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説体育編(平成29年6月 文部科学省) 新しいボールゲームの授業づくり
(大修館書店) 新版 体育科教育学入門 (大修館書店)

学生に対する評価

平常点（授業への取り組み、ディスカッション、模擬授業への参加意欲、小レポート）30% 指導案作成演習で作成する指導案 40% 学期末のレポートもしくはテスト 30%

授業科目名： 初等英語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 粕谷恭子、阿部始子、相田眞 喜子			
担当形態： クラス分け・単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）					
授業のテーマ及び到達目標						
平成29年3月に告示された新学習指導要領で新設された小学校3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科の授業を行うための基本的な指導力を身に付ける。新学習指導要領に謳われている理念及び児童期の第二言語習得を深く理解した上で、①授業づくりの方法、②実際の基本的な指導技術を身に付けることを目標とする。						
外部人材とのチーム・ティーチングなど、外国語活動・外国語科特有の指導環境の中で、担任としてどのように関わり、どのような役割を果たすことが望まれているか、深く理解する。						
授業の概要						
新学習指導要領に謳われている理念及び児童期の第二言語習得を深く理解した上で、実際の授業場面の映像視聴、学生を児童に見立てての実践や教材・教具の紹介を行う。特に音声が重要な部分を占める小学校においては、音声インプットの質と量の確保が必要であり、そのための音声教材についての知識や指導技術を実践的に身に付ける。ペア・グループ・全体での多様な規模の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付ける。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション・外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領						
第2回：小・中・高連携、児童・学校の多様性への対応、主教材、教材研究						
第3回：子どもの第二言語習得の特徴：言語使用、類推、音声面						
第4回：子どもの第二言語習得の特徴：意味のあるやり取りの重要性、4技能のとらえ方、言葉への気づき						
第5回：授業視聴 ディスカッション						
第6回：英語で語りかけ方 実践練習						
第7回：発話の引き出し方、児童とのやり取り 実践練習						
第8回：文字言語の与え方・読む活動・書く活動への導き方 実践練習						
第9回：年間指導計画・単元計画・学習指導案、学習状況の評価						
第10回：題材の選定、教材研究、ICT教材・情報通信技術の活用						
第11回：模擬授業（外国語活動）						
第12回：活動のデザイン、チーム・ティーチングによる指導の在り方						

第13回：模擬授業（外国語「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」）

第14回：模擬授業（外国語「読むこと」「書くこと」）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 外国語編・外国語活動編（平成29年3月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月 文部科学省）

GIGAスクール構想のもとでの小学校外国語活動・外国語かの指導について（文部科学省HP）

各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画（文部科学省HP）

学生に対する評価

模擬授業30% ディスカッション及び通常の課題への取り組み30% 期末の課題40%